

令和7年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

令和7年9月9日（火曜日）

議事日程第4号

令和7年9月9日（火曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 18名

〈出席議員〉 18名

1番	池田七菜君	2番	松田徳彦君
3番	加藤康太郎君	4番	渡辺栄一君
5番	関原奈津美君	6番	利根川正君
7番	田中立一君	8番	和泉克彦君
9番	近藤新二君	10番	田原洋子君
11番	宮島宏君	12番	東野恭行君
13番	阿部裕和君	14番	古畑浩一君
15番	田原実君	16番	中村実君
17番	保坂悟君	18番	松尾徹郎君

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	久保田郁夫君	副市長	井川賢一君
総務部長	嶋田猛君	市民部長	山口和美君

産 業 部 長	猪 又 悦 朗 君	総 務 課 長	磯 貝 恭 子 君
企 画 定 住 課 長	大 西 学 君	財 政 課 長	塚 田 修 身 君
能 生 事 務 所 長	高 野 一 夫 君	青 海 事 務 所 長	仲 谷 充 史 君
市 民 課 長	小 竹 貴 志 君	環 境 生 活 課 長	木 島 美 和 子 君
福 祉 事 務 所 長	山 岸 千 奈 美 君	健 康 増 進 課 長	林 壮 一 君
商 工 観 光 課 長	山 崎 和 俊 君	農 林 水 産 課 長	星 野 剛 正 君
建 設 課 長	長 崎 英 昭 君	都 市 政 策 課 長	内 山 俊 洋 君
会 計 管 理 者	山 田 康 弘 君	ガ ス 水 道 局 長	陶 山 智 君
会 計 課 長 兼 務			
消 防 長	竹 田 健 一 君	消 防 次 長	中 村 淳 一 君
教 育 長	鶴 本 修 一 君	教 育 次 長	山 本 喜 八 郎 君
こ だ も 課 長	室 橋 淳 次 君	こ だ も 教 育 課 長	小 川 豊 雄 君
生 涯 学 習 課 長	川 合 三 喜 八 君	文 化 振 興 課 長	嵐 口 守 君
監 査 委 員 事 務 局 長	川 原 隆 行 君		

〈事務局出席職員〉

局	長	磯 貝 直 君	次	長	上 野 一 樹 君
係	長	川 原 卓 巳 君			

〈午前１０時００分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（古畑浩一君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、３番、加藤康太郎議員、１１番、宮島 宏議員、両名を指名いたします。

日程第２．一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順にこれを許可します。

阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。〔13番 阿部裕和君登壇〕

○13番（阿部裕和君）

おはようございます。みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、子育てしやすい糸魚川の実現に向けた環境整備について。

(1)（仮称）駅北子育て支援複合施設は、子育て支援センターや屋内遊戯場を含む多機能拠点として計画され、それに併せて駅前のにぎわい創出も目的としていました。この計画を中止し、広場整備に計画変更した理由を伺います。

また、どのような評価や議論がなされてきたのか、経過も伺います。

(2) 広場整備予定地の敷地面積は約1,830平米と限られており、この規模の広場整備で子育て支援とにぎわい創出をどう実現していくお考えか伺います。

(3) 単なる小規模な広場整備にとどまらず、糸魚川駅前という立地特性を踏まえ、より効果的な施設・空間とするべきと考えます。広場整備案の妥当性について、市の見解を伺います。

(4) 子育てしやすい糸魚川の実現を考えれば、糸魚川駅前に新たに広場を整備するよりも、須沢臨海公園のような市民のみならず、多くの方から利用されている、市を代表する公園を充実させるほうが、利便性や満足度の向上、投資効果の面でも有効ではないかと考えます。両者の投資効果を比較検証されたか伺います。

(5) 民間施設を含む既存の施設を活用した屋内遊戯施設の整備について言及されていますが、具体的なものは示されていません。整備内容や運用開始時期の見込み、財源及び予算規模、運営形態（直営・委託）なのかにについても伺います。

(6)（仮称）駅北子育て支援複合施設の当初計画には、子育て支援センターを含む屋内遊戯施設設置のほかに、一時預かり保育、図書・学習スペースが整備される予定でしたが、これらの機能については方向性が示されていません。今後どのように整備していくお考えか伺います。

(7) 先般「（仮称）駅北子育て支援複合施設見直し支援業務委託」が入札公告されましたが、議会説明と実際の業務が整合していないように見受けられます。その背景と理由について伺います。

2、誰もが投票しやすい環境づくりと期日前投票所の拡充について。

(1) 投票率の向上のため、どのような取組を行っているか。また、今後新たな環境整備や啓発活動を展開していくお考えか、伺います。

(2) 期日前投票所は、市役所本庁及び両事務所の3か所に限られていますが、その理由は何か、

伺います。

(3) 多くの市民が日常的に利用する商業施設等を活用した期日前投票所の設置について、お考えを伺います。

(4) 高齢化や中山間地をはじめとした交通不便地域に対応するため、「移動式期日前投票所」導入の可能性について伺います。

(5) 他市の事例調査や施設管理者と協議を進め、今後、期日前投票所の拡充を検討していくお考えはあるか伺います。

以上、1回目の質問でございます。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、これまで復興計画やまちづくり戦略など様々な場面において、市民の声を聞く中で進められてきたことは承知しておりますが、一方で、大規模な建物整備を心配する声も多く聞いたことから、計画を見直したものであります。

2点目につきましては、複合施設の目的を継承しつつ、様々な目的で多くの人が楽しめる広場となるよう努めてまいります。

3点目につきましては、駅北大火からの復興まちづくりを進めてきた経過や様々な条件等を踏まえ、複合施設の目的を継承した汎用性のある広場を整備することは、今後の駅北地区のまちの機能を市民との協働により補完するものになると考えております。

4点目につきましては、このたびの整備計画は駅北大火からの復興から始まっているものであり、その施設整備の内容修正を行い、広場の計画としているものであります。

ご提案の内容につきましては、子育て支援の観点から、別途、検討する必要があると考えております。

5点目につきましては、既存施設の立地、規模や状況などを踏まえ、利用までにかかる改修費用や運営手法なども含めて検討しているところであります。

6点目につきましては、利用する既存施設の規模や状況により検討してまいります。

7点目につきましては、今後の地区懇談会や国への計画変更手続に必要な資料作成をするものであり、複合施設の見直しに必要な業務を委託するものであります。

2番目の1点目につきましては、現在、広報紙やホームページ、防災行政無線などにより啓発活動を行っており、今後はSNSの活用も検討してまいります。

2点目につきましては、選挙人名簿の即時照合が可能な市役所、能生生涯学習センター、青海事務所の3か所を常時開設する期日前投票所としております。

3点目から5点目につきましては、今後、投票所の統廃合を予定していることから、商業施設を含めた移動期日前投票所の導入等について、他市町村の事例を参考に検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁

もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

それでは、子育てしやすい糸魚川の実現に向けたというところから質問いたします。

子育て支援複合施設の建設予定業者であった業者さんと、契約解除について、今まで事務作業を進めてるってことだったんですけれども、どの程度進んでいるのか。

また、解約に伴って、市が負担する支出はあるのか。

また、正式に契約解除になる時期というのはいつなのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

DBOでの建設を予定しておりました契約の事業者さんとは、6月11日に市長のほうから解約の申入れをさせていただきまして、その後、事務レベルで3回これまでに協議を重ねているところでございます。相手方とは紳士的に協議は進めさせていただいておるところでございます。

いつの時点でまとまるかといったところにつきましては、まだ今の段階では明確に申し上げることはなかなかちょっと難しいんですけれども、内容のほうが決まりましたら、早期に議会のほうにもお示しをして、また、解約金等についても議決をしていただく必要があるかなというふうには思っておりますので、そういったところも含めてご報告させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

子育て支援複合施設の整備費は総額で14億8,000万円、市の負担する金額は2億7,380万、運営の維持管理費は年間5,000万とされてきました。これに対し、現在想定されている広場整備に係る設計費、工事費、用地費等の総額、そして年間維持費は、幾らを見込んでいるのか。あわせて、既存の施設を活用した屋内遊戯施設の整備、年間維持費も併せて幾ら想定しているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

計画予定地における新たなその広場、汎用性のある広場といったところでの整備にかかる費用等

につきましては、今現在、内容について検討を進めているところでございます。汎用性のある広場ということで市民の皆様にご提案をさせていただいてその内容について、この１２月ぐらいまでに固めていきたいということでございますし、あわせて、並行してそういったものにかかる費用、そういったところを現在、委託という形で業務を進めさせていただく中で金額等も算出していきたいと思っております。

もう一つ、既存施設を活用した屋内遊戯場の利活用といったところにつきましても同様に、今現在どれぐらいの改修費用、それは利用する既存施設によっても異なってくるかと思っておりますので、そういったところを含めて現在検討しているところでございまして、まだ明確にお答えできる状況にはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○１３番（阿部裕和君）

今後、小学校区１３か所で計画について説明会、懇談会があるというふうにお聞きしていますけれども、これ、いつ日程出るのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

日程につきましては、９月１０日の明日、おしらせばんでお知らせするんですが、それと同時に、ホームページのほうをアップさせていただきたいと思っております。

初日につきましては、１０月の３日から開始する予定にしております。

失礼いたしました。初日につきましては、１０月の２日から開始になりますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○１３番（阿部裕和君）

すいません。最終日、回り終える日も伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

11月の27日の予定にしております。会場は、糸魚川市民会館で、最終日になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

市長のほうは、今まで複合施設の建設費であつたり維持管理費というのの高額だということを問題視されて、中止に至っている背景があると思います。これは13か所の懇談会の場でも、具体的な金額は無理にしても、ある程度の予算規模はお示しする必要があるんじゃないかと思います。

また、あわせて、広場と屋内遊戯施設を整備した場合の案ですね、久保田市長の案は。それと比較して、それと子育て支援複合施設の今までの計画、要は市が負担する金額は幾らかとかいうのも全て明示した上で、比較検討できる資料を基に費用や各施設の機能、また、この整備をすることによって生まれる効果はこういうものですよというのを示して説明する必要があると思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

阿部議員のおっしゃることは、ごもっともだと思います。やっぱり市民の説明には、いろんな観点から説明すべきものだと思いますけども、今担当課のほうと、どの部分まで説明を提示できるのか、それによって、いろんな不利益をこうむらないようにするにはどうすればいいのかという部分も含めて検討しているということであります。

また、これからの質問の中にも出てくるとは思いますけども、現時点で子育てぞっきの計画ではなくて、今現時点で、糸魚川市において、例えばひすいルームだとか、サテライトキャンパスだとか、また、通信制の大学が、今現時点であると。また、ひきこもりの対応等、それらの部分を既存施設の中でどういうふうな形で組み入れていけばいいのかという部分をやっぱり考えながら、子育てという部分もそこに焦点を置いて考える必要があるということで、非常に今流動的な状況になっていると。その建設するにしても、資材費の高騰だとか、人件費の高騰で、また読めない部分も出てきているという中で、そういう数字的な部分については、やっぱり綿密に調整しながら図っていく必要があると思っておりますので、それについては、担当課としっかり詰めながら、できるだけお話しできるようにさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ただいま市長がおっしゃったものを、要は実現させようとして、駅北子育て支援複合施設が計画されたんじゃないんでしょうか、当初。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

当初、計画されておりました駅北子育て支援複合施設というところにつきましては、市の課題等も踏まえる中で、今、久保田市長が言われた部分も踏まえる中で、検討した中で、整備骨格というのが固まって事業を進めてきたというふうに思っております。

また、その計画を進めてきたところを踏まえる中で、久保田市長が当選されて、今の計画に対しての修正という形で加わって、現在に至っているというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

すいません、話替えます。

6月議会の答弁では、12月議会に計画変更を諮る予定というふうに説明ありましたが、現在、委託業務を出されて、整備方針や配置計画等の設計委託出されてますが、こういったものは、12月議会に示される予定なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

汎用性のある広場ということで、計画の修正を加えて市民の皆様に今ご説明をさせていただいているところであります。そういったものを、より分かりやすく、また、計画の修正をしっかりとやっていくといったところで委託をさせていただいておりますので、そういったものを踏まえて、また議会のほうからも、ご判断いただけるような材料をそろえて、12月でお示ししたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

12月の議会にそういう配置図とかも全部出るって言ってるんですけど、11月27日に回り終えますよね、懇談会。皆さんのご意見反映させたいとおっしゃってますが、果たして本当に反映できるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今回の計画の修正というのは、本当に非常にタイトな日程の中で行っていると思っております。そういった中でも、何とか修正できるところをしっかりとやっていくというところで、市民の皆様のご意見も取り入れられるところはしっかりと取り入れていきながら、また検討させていただきながら、事業のほうは進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

じゃあ、イコール今、噴水とか水の遊び場とふわふわドームの整備が見てとれるんですけど、そこから大きく変えられることはないってことですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市のほうの提案といたしましては、今そういった噴水の広場とふわふわドームというところを基本としておりますので、大筋はそういったところで進めていきたいということでご提案させていただいているものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

屋内遊戯場のほうで聞きます。

既存の施設を活用した屋内遊戯場の整備なんですけれども、当初、駅北に整備予定だった屋内遊戯施設の機能とか規模とかの面で、遜色ないものを整備していく予定なのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

基本的には、同様な規模のものをというところで想定していきたいと思っております。

ただ、こちらにつきましては、その既存施設の大きさによって左右されるものというふうに思っておりますので、また、その利活用をし得る既存施設を複数検討していく中で、総合的に判断させていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

じゃあ、当初、駅北のほうに整備予定だった屋内遊戯場のとこに係る金額というのは、大体幾らぐらいだったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

屋内遊戯場だけの部分での金額というところは、ちょっと算出されておられませんのでお答えできません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

分かりました。

屋内遊戯施設については、中身、今のところ示されてないんですけども、実際に利用する子育て世代の意見というのはどうやって集めて、計画に反映させていく予定なのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

屋内遊戯場の内容というところにつきましては、これまでも子育て世帯の方から様々なご意見をお聞きしております。設置する場所が、市内の中で変わると、駅北じゃないところになり得るということではございますが、基本的なところのお考えは、これまでもお聞きしているというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

これまでお聞きしてますというところで、要は本当に8年間こうやって計画が続いてて、直近で何かアンケートとかこういうのというのは何かありましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

ほんのこの直近でということでは、直接的なアンケートというところはお聞きはしておりません。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

本当に時代はすぐ移り変わってるので、本当にアンテナ張りながらやっていっていただきたいというふうに思います。

また、仮になんですけれども、駅北にふわふわドームであったり水遊び場というものを整備して、屋内遊戯施設については、既存の施設を活用して整備することが可能というのであれば、むしろふだんから公園利用されてるようなところ、具体的には須沢臨海公園なんですけれども、須沢臨海公園は、ふだんから公園利用もありますし、それに加えて今ヒスイ探し、釣り、オートキャンプ場といった人で多くにぎわってます、青海シーサイドパークとしてにぎわってます。そのにぎわってる公園に、ふわふわドームであったり、こういった公園整備というのを拡充していくことのほうが効果的なんじゃないかなと思います。そして、その公園に子供だけじゃなくて高齢者も健康増進に資する遊具を置いて、ほんとに多世代が集まれる公園整備をやっていくことが重要じゃないかなと思います。

青海のシーサイドパークの須沢臨海公園の課題としては、外貨を落とす場所がないというところが課題でした。市長のおっしゃるようにキッチンカーが乗り込めるようにできれば、本当にイメージできるんですよね、にぎわいが。

今、その一方で、駅北については、その将来を見据えて、規模や内容を見直しした子育て支援複合施設を整備するというのが、費用対効果を見ても、まちづくりの観点からも有効じゃないかなというふうに思うんですけれども、久保田市長、お考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

今、阿部議員のほうから須沢の臨海公園ということでお話ありました。十分、須沢の臨海公園の利用価値等も十分承知をしております。

ただ、やっぱり青海という地域と、また逆に能生という地域と、それぞれのところでニーズはあると思うんですね、子育ての施設、遊び場っていう施設。また、駅北という部分については、そういうニーズのほかにも全体的な駅北まちづくり計画に基づいて、そこにやっぱり流動性だとか、回遊性の起点づくりをしたいという部分で今考えている中です。基本的には、私自身がやっぱり今回、市長として皆さんにお伝えしてきたことは、見直しという観点で対応していますので、その見直しの観点の中で、広場等、汎用性のあるものとして考えていきたいということでご提案を申し上げているということです。

建築については一旦中止ということになりますけども、いろんな意味で、新幹線駅から海岸に向かうあそこの駅前通り、そして、本町通り、ロの字の通り、またイベント等に活用していくまちづくりの中の一つの起点づくりという部分で、広場等の考え方をお示ししているという状況です。

そこにその広場があることによって、まちづくりに資する皆さんが、自分たちが、じゃあ、こういって協力できるという声をお聞きしながら、また、そういう声を呼び起こしながら、一体となってまちづくりを計画していきたいという、そういう思いの中で、あそこの立地を生かした計画にしたいということで考えを述べさせていただきますので、ご理解をしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

地域性はあれど、私、青海の話してるんじゃないんです。青海シーサイドパークの臨海公園は、須沢臨海公園は、市を代表する市の公園だというふうにお伝えしてます。何ていうんでしょう、その場その場の適所ってあると思うんです。須沢臨海公園って、やっぱり久保田市長どう受け止めているかはちょっと分かりかねるんですけれども、青海の地元の人だけじゃなくて、糸魚川の人もあるし、能生の人もあるんです。地域の公園じゃなくて、本当に市の公園なんです。そういう観点から今お話ししましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

阿部議員からおっしゃられた点については、私自身も少なからず理解をしております。市、市民の声、市民の場所であるという部分では理解しております。

ただ、じゃあ、これから整備する駅北のところそういう部分があってもいいんじゃないかという声は、私のところにも届いております。そういう中を含めながら、いわゆるいろんな声、絶対的にそこを100%駄目という声ではなくて、そこにもそういうものがあるって、そして我々が協力できることはこういうことができますよという声を基に、あそこのところも整備計画をしているとい

う部分で、また、糸魚川の新幹線駅を降りた、あその土地利用について、今後のいろんな計画に基づいて、何か可能性のある部分を探っていくという部分では、あその立地を生かしていきたいという強い思いの中で、あその利活用について進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

これまで、駅北子育て支援複合施設の計画については、賛否ありながらも、議会としては可決を重ねてきた議案であります。新たに市長が就任されて、議会に諮ることなく、ある種一方的に建設中止を決定いたしました。そして、広場整備案に転換。この市長選のとき、選挙のときに実施された建設に対する出口調査というのを新潟日報のほうで行って、4月の22日の日報で報道されています。その結果が、市長もよくご存じだと思うんですけども、建設反対が59人で、賛成が55、中身の見直しを含む、その他という意見が35でありました。この数字を見る限り、基本的には施設整備を見直してでも望むという意見が多数だったんだろうというふうに見受けられます。

現時点では、現計画ですよね、が、正式に契約解除が完了していません。これら市民懇談会をこれから重ねていく中で、現計画を見直した上で、やはり整備を、施設整備をしてほしいという声が出てくるってことは十分考えられることであります。その声が多数聞かれてきた場合、現計画を見直して、中身ですよね、中身も規模も見直して、再び子育て支援複合施設整備計画として進めていくお考えはあるのか、お考えというか、可能性はあるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市長が替わられてから、今回、汎用性のある広場ということで、計画のほうを修正させていただくということで議会のほうにもご説明をさせていただき、これまで進んできたというふうに思っております。そういった中で、今の修正自体についても非常にタイトなスケジュールではありますけれども、今議員おっしゃられるような、元のDBOの計画に戻して事業を実施するといったことにつきましては、既に相手方とは解約協議を進めさせていただいている状況でございますし、計画全体の期間といたしましても、非常にもう詰まっているような状況がございますので、元の状況に戻すといったところは非常に厳しいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

厳しいけど不可能じゃないってことなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

施設整備のスケジュールからいっても、ほぼ無理ではないかなというふうに、担当課としては想定しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

やればできるというところもあると思いますんでね。

海望公園の話、させていただきます。

海望公園の面積は、約1,560平米であります。そこにトイレ、駐車場というものがあります。実際に遊べるスペースは、およそ1,000平米程度だというふうに担当課のほうにお聞きしています。

一方で、駅北の広場予定地というのは約1,830平米で、管理棟や動線、管理等の設置をして、動線、L字なんでね、場所が、というのを考慮すると、実際に子供たちが遊べるのは、同じく1,000平米程度なんじゃないかなというふうに思いますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

確かに限られた面積ということになりますので、遊べる範囲としては、今現状にあるその施設の中でということになっていくかなというふうに思っております。具体的なものは、もう少しその計画のほうをしっかりと詰めさせていただく中で明らかになってくると思っておりますので、またそこでご説明をさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

イメージしてほしいんですけど、海望公園にその噴水、今、噴水ありますけど、ふわふわドームがあって、何ていうんでしょう、限られたスペースに、ふわふわドームとかその水遊び場、そこにキッチンカー入ってくる。障害者専用の駐車場も整備するってなると、かなり本当に狭いんじゃないかなというふうに思います。この整備で、市が掲げる子供が自発的で自由な発想で遊べる広場と

いうのは、本当に実現できるのかなというふうに思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

まず、具体的なものにつきましては、もう少し市のほうでも検討、その調査を進めていく中でしっかりとした絵になるものをお見せして、本当にじゃあ、ふわふわドームはこの大きさになるのか、噴水広場をこれぐらいの規模になるのかといったところは、これからしっかりと詰めて、お示しできるようにしていきたいというふうに思っております。

また、そういった中で子供たちがしっかりと伸び伸びと健やかに、遊べるようなスペースというのは、運営面のほうも含めて、検討はしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

広場には管理棟の設置というところを市としてはお考えだと思うんですけども、果たして本当に、ここに管理人を置いて、管理棟を設置する必要があるのかというのと、設置するとしたら指定管理とかになるのかなとか、地元商店街とか地元の方とどうやって連携して、そこ、にぎわいって話もあるんでね、どうやってやっていくのかなって思うんですけども、広場整備に当たっては、国への補助金等の書類の中で、管理運営体制の構築というのは必須条件になっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

その管理運営体制については、直営にするか、また委託等にするか、指定管理等にするかというところについては、国のほうでは特段の制約はないというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

話、替わります。

一時預かりとか学習スペース、図書スペースなんですけれども、今ほど検討していくとあったんですけども、これはどのように整備していくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今お示しをしております汎用性のある広場の中では、なかなかやっぱり学習スペースとか一時預かりというのは難しいと思っておりますので、既存施設を活用した屋内遊戯場のところに、そういったものは併設できるかどうかといったところは、今後、検討させていただきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

一時預かりとかは理解できるんですけど、図書とか学習スペースというのはどうやって整備していくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほどと答弁繰り返しになるかもしれませんが、既存施設の大きさによりまして、そういったものを組み込めるかどうかといったところを検討させていただくことになると思っておりますので、また、その規模によって、そういった図書スペースもどうするかといったところ、ただ、今キターレのほうでも若干、図書コーナーみたいなのところがありますので、そういったところも活用できるかというところは検討していく必要があるのではないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今回、市長が、この広場整備案って出されたのは、市長ご自身の政策判断で、強い意志の下、示されたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、基本的にそこに至った部分については、当然、私自身が、市長になる前の数年間の中で、

いろんなところに出向いていたりいろんな話を聞いて、また、地区の区長として、区長会でのお話を聞いて、また、広く広範囲にいろんな方々と会話できる機会がありましたので、そういう部分、そしてその声の中において、私自身が、駅北の部分についてどうすればいいのかという部分を皆さんのほうからご意見を頂戴してきました。そういう中において私自身がこういうふうな部分で駅北について計画をすればいいのかという思いの中で、たまたま選挙を通じて、その前後の中で駅北の子育て支援複合施設の部分についても論点にするタイミングがあったという行為で、それを基に今回市長になった段階で、担当課、いわゆる庁内のほうに、そういう部分を私自身の考えとして、こういうふうにしたいというふうに話を出してきたということが経緯の一端です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

じゃあ、本当に市長の強い意志ということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

当然、行政責任がありますので、強い意志というふうについては、私の中にあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

東北電力ビルと宮田ビルなんですけれども、ビルの解体というのは避けられないというふうに、やんなきゃいけないというふうに思うんですけれども、市長いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

これまでの経緯の中においても、あのビルの解体が、全ての前提になっているということは、異論ないところだと思います。また、あの2棟のビル以外にも、駅北の角地については、残りの施設もございます。そういう部分も含めて、今後、行政サイド、また民間サイドで考える余地が出てくるのではないかとこの予測があります。あれを放ったらかし、放つといていいということではないと思いますので、それについては、一旦まず、2棟解体が最優先、その中において民間の方が、どういうお考えを持って、どうしたいのかという部分は、また話し合い、検討していかなければいけ

ない。そうすることによって、立地が最大限生かされるものになるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今まで子育て支援複合施設の原案ですよね、が可決されてきた背景というのを見ますと、久保田市長が、広場整備というふうに転換されました。その転換したことで、今まで、要は可決で通ってきたものをひっくり返したってことは、議会で広場整備案が否決されるということも十分考えられると思ってます。そうした状況を踏まえると、市長は、広場整備に転換したときには、市の一般財源のみで解体を行うことも覚悟した上で広場整備案を示されたのかなというふうにも受け止められるんですけども、仮に広場案が議会で否決された場合、一般財源をもって2棟のビル解体を進めるのか、それとも解体は一般財源じゃできないんだということで見送るのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

財源措置については、当然、庁内できちっと議論すべき問題だし、議会にお諮りするべき問題だと思います。

ただ、今までの経緯、また議会の皆様から2棟についての現地視察をしていただき、また、周辺市民の皆さんのほうから、もう早く解体してほしいという声が上がっておりますので、それについては今回の事業計画の中で、仮にそれができないのであれば、最悪の状態を考えた上での検討はこれからしていかなきゃいけないと思いますけども、一概にそれをしますというふうにして、ここでは断言できない問題だと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

話、替わります。

駅北の、先日、8月29日、8日でしたっけね、にヒスイ王国館での懇談会、その後から本当に様々ご意見いただいています。その中には、駅北に広場はふさわしくないという声だったり、何で広場なんだという声も寄せられてます。

昨日もやっぱりある同世代のお母さんですけど、やっぱり駅北にあればいいよねって、やっぱり市民の方は財源とか、その国の補助金というのまで深く理解されてる方というのは少ない中で、それでもやっぱり入善のわくわくドームのように、大きい公園と雨が降っても遊べる、要は併設する、屋内遊戯場と公園が併設する場所、簡単に言うと須沢の臨海公園に併設して、屋内遊戯場を造れば、本当いいよねって話はいただきました。その方、青海の方じゃないです、一応言っておきま

す。

その一方で、広場整備案に変更になったことすら知らない子育て世代もあります。残念ながら、市民の関心というのは、そこまで高まってないし、また十分情報が届けられていないんだというふうに受け止めてます。またその結果、一部の人だけでこの計画が進められようとしてるんじゃないかなというふうにも感じるがあります。

これから各地区の懇談会が開催されますが、その懇談会だけで市民の合意形成というのをされるのは難しいんじゃないかなというふうに思ってます。全ての市民に情報を届けた上で、駅北子育て支援複合施設の場合はパブリックコメントもやってますし、無作為の抽出アンケートというのもやったらどうかなというふうに思いますけど、市長は、納得解を見つけないというふうに述べられましたが、その納得解は、どのようなプロセスで導いていくお考えなのか。

また、今ほど私が説明した、こういう現状を受け止めて、市としてはどういうふうな対応していくお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

納得解ということで説明いたしますと、まず、大きな円をイメージしてもらって、その中心にあるところは、まず近隣の住民の皆さん、そこに今度は、いわゆるその周辺の皆さん、そして市内の、いわゆるその地域以外の方々の皆さん、そして市外の皆さんというふうにして、やっぱりこうやっていかなきゃいけないんですけど、今現時点で、その中心にある方について、まず最初の4月当初から、前回、8月29日までの間で、いろんな、いわゆる組織の皆さん、イベントをされてる皆さんと話をした中で、聞いてきて、今現在に至っている。10月から11月にかけて、また中心円以外のところの部分の皆さんからの声をお聞きするというところで進めております。広くパブリックコメント等の部分については、現時点ではどういう手法でやればいいのか、それについては検討はさせていただきますけども、その時間的な部分と集約する部分、前回パブリックコメントを取った状況の中で、果たして今回の計画について、いわゆる民意的な部分が醸し出されるのかどうかという部分、そこも含めて、やっぱり前回のものと今回やろうとしてる部分を、いろんな部分で比較検討しなきゃいけないと思っております。そういう材料は取りそろえていくというのは、非常に大事なことだと思いますけども、時間的な制約、それと我々の直接声をお聞きした部分で補完できる部分があるのであれば、それについて対応していきたいと。

今、阿部議員さんのほうもいろんな声をお聞きしていると、私自身もいろんな声をお聞きしております。そういう中で、それが、イーブンであるのであれば、そういう部分も、もう片方の意見についても、自分たちは計画の中に、じゃあ、どうすればいいのかという部分を見つけ出していくのが最終的には納得解になってくるんじゃないかというふうに考えておりますので、その辺のところをまたご理解をしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

補足して、説明させていただきたい
と思います。

地域の皆様方の様々な声というお話でしたが、地区懇談会をする前に、糸魚川地域、能生地域、青海地域の代表者の皆様と、懇談のほうをさせていただいております。その中では、やはり様々な声がありましたが、今現在考えられている施設ではなく前の施設なんです、どれだけの利用があるのかとか、また、計画の中止に賛成だというお声もいただいたり、また、整備場所の変更についてもご提言等もございました。やはり各地域の皆様につきましても、様々な意見があるものだというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

パブリックコメント、ぜひいろんな方法・手法で意見聞いていただきたいと思うんですけども、一つ、実際にこれから利用するのって今、保育園だったり幼稚園へ行ってる世代だと思うんですけども、そういった保護者の意見というのは、どう聞く予定ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

具体的なところというところは決まっているものは今ございませんけれども、例えば今、子育て支援センターを利用している保護者の方等にご意見を聞くというのは、1つの案ではないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

実際にいただく声として、要は地区懇談会やりますと言っても、やっぱりその世代の人たちって行けないんですよね。行ったとしても、ぜひその声を生で伝えてくださいってお伝えしても、できませんと、やっぱり言えませんというお声多いです。イコール埋もれていくんじゃないかなというふう思うんですけども、実際に本当に糸魚川市全体に関わる施設なんで、その市民の合意とい

うのは必要なんですけれども、実際に使われる方、使おうと、使いたくなる場所にするというのは、その利用者の声というのは、特に反映させる必要があるんじゃないかなと思いますけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

実際に、本当に利用される方の声というのは重要だというふうに思っております。

当初、この駅北の子育て支援複合施設の計画の段にあっても、以前から、私どもこども課としては、子育て世代の要望としての、そういった屋内遊戯施設の必要性というのはアンケート調査、また現場で実際にお声を聞くという中で、十分認識をさせていただいております、これまでもそういった点については訴えをさせていただいたところであるというふうに思っております。

そういったところも踏まえて、基本的にやはり子育て世代に必要なそういった屋内遊戯場のニーズというのは、そんなに大きく変わっていくものではないというふうに思っております。市内には今ないような、そういった屋内遊戯施設について、しっかりと、まずは造るといったところが大事だというふうに私どもも思っておりますので、また今後、そういった子育て世代の方のご意見をどういった形で聞くかというところはありますけれども、またさらに追加でお聞きしていく中で、しっかりと、よい施設になっていくように検討は進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

手法として、どういうふうに聞いていきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やり方としては、いろんなやり方はあるかなとは思いますが、やっぱり生の声を聞くというところでは、実際に支援センター等をご利用されている方とか、また保育園等の保護者さんに聞くというところが一番近いのではないかなというふうには想定しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ぜひ期待しております。本当に駅北子育て支援複合施設の計画については、どうなんだろうという意見も、もちろんいただいてました、私も。中身どうすればいいんだろう、これでいいのかなって言って、要らないなって言ってた人も、広場整備を知ったときに、施設は違うって言ったけど、広場、これでもないんだよなというお声も多数いただいているんですけど、それ、子育て世代からです。それについてはどう受け止めますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

まだ今現在の段階でそういった、皆さんに駅北の施設が汎用性のある広場になったという情報しか、恐らく伝わっていないのではないかなというところが想定をされます。並行して、既存施設を活用した屋内遊戯場、そちらの部分がまた見えてくると、皆さん方の反応もまた違ってくるのではないかなというふうにも思っておりますので、そちらの既存施設を活用した部分についても、早急に検討のほうを進めさせていただいて、お示しできるようにしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

広場整備であったり、屋内遊戯施設の規模とか予算もこれから示されるってことなんで、注視していきたいと思います。

駅北の予定地は、決して広いとは言えないと思うんです。自由に遊んでほしいという願いがあったとしても、やっぱり広さ的に、物理的にも子供の遊び方に制限が出てくるんじゃないかなというふうに思います。また、水遊び場が予定されている場所のすぐ横には、市道がございます。これによって、子供の飛び出しによる事故という危険性も出てくるんじゃないかなというふうに懸念いたします。

また、整備予定地には、防災用の井戸が設置されている大町仲町公園というんでしょうかね、が隣接しております。この市道、横の通ってる市道であったりの廃止であったり、その井戸の公園も含めた一体的な整備をイメージして、広場案に出されたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、市道の関係ですけども、平日の運用と土日・祝日の運用という部分に、いろんな部分で切り分けをしなきゃいけないと思っていますけども、道路の運用については、一方的に移行しますと

いうわけにいきませんので、調整が必要だと思います。

また、周辺部分の海望公園のそこの井戸のあるところ、そして、加賀の井さんの周辺のところ、いろんなところありますけども、今利活用している部分を、私自身が実際に年間を通して見てみますと、ミライトによるイルミネーションで活用するとか、また、海望公園については、ほとんど頻度がない。たまたま海のほうに、新幹線の駅を降りて、海のほうにいる方が、あそこの奴奈川姫が出雲のほうに向いているところを見て、あそこのあずまやのところでちょっと登ってみる。

ただ、それぞれのところが今、生きてない部分があります。その生きてない部分を、あそこの立地のところにうまくしつらえながら、例えば世代層、海望公園を利用する世代層も、そこで改めて海望公園の利用について、それだったら、子供の遊んでる場所がそこであれば、子供を遊ばせておいて海望公園に一旦寄ってくるとか、また、あそこの、いわゆる井戸のポンプのあるところが、こういうふうにして、そこが集える場所になるんだとかいう部分を、改めて市民の皆様が、自分事としてそれらを活用していくというふうに仕向けていかなきゃいけないと思うんですね。それらのやり方も、市民が協働してやるという部分への、やっぱり我々の情報発信も必要だし、そういうふうな呼びかけも必要になってくると思います。ただ単純に、場所を造ったから全てが、何か可能なんではないというふうに私自身は強く思っていますんで、そうなったときに、じゃあ、どうするのか、どういうふうな活用の仕方があるとか、そっからがまた、少しずつしっかりとフェーズをつくり上げていかなきゃいけないというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今、駅北子育て支援複合施設の見直し支援業務委託を発注していますが、この業務内容には、屋内遊戯施設の整備の検討も含まれてます。これは、駅北エリアに限定したものなのか、それとも市内、それこそ青海から能生までの市内の既存施設の活用も含めたものなのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今そちらの議員ご質問の委託業務につきましては、今回の駅北子育て支援複合施設の整備見直しに伴って生じる部分の調査委託をするものでございます。今お示しをしておりますその汎用性のある広場といった部分の内容を詰めるものと、もう一方では、そこで予定されておりました屋内遊戯場、そちらを市内のどこかで整備するといったところでの視点で業務委託をしているものでございまして、駅北に限らず、そちらの屋内遊戯場につきましては、既存施設を検討させていただくということになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

この業務委託の財源というのは、国から確約されている、今までの駅北複合施設のものなんでしょう。この駅北エリア外にも整備を考えているものに対して、この補助金が対象になるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今回の調査委託については、基本的な設計部分の委託というようになります。国のほうの補助では、そういった基本的な部分の調査委託につきましては補助の対象とはなりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

市内には現在公園だけでいうと、大小合わせて77か所の公園があります。今までも一般質問の中でも取り上げてきました、その点についても。これから市として、今後、公園の在り方検討、そして統廃合も進めていくという方針で今まで来てます。

その中で、あえて新たに駅北に小規模な広場を整備するということは、市長が掲げる縮充の考え方と、果たして整合するのか。これについては本当に、申し訳ございません、疑問を感じます。むしろ、この整備案であれば、駅北には規模や中身を見直した子育て支援複合施設を整備して、公園機能、市民が本当に使ってくれる公園機能を充実させていく。例えば須沢の臨海公園ですね。須沢の臨海公園を充実して、そこを使ってくださいというふうに示していく。そして、全市的に公共施設の機能を補完、集約しながら、統廃合を進める。このことこそが、縮充を具現化する道筋ではないかというふうに考えるんですが、市長の見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

あえてという言葉で阿部議員さんおっしゃられました。私自身は、あえてという部分で広場という部分を導入したということではなくて、当然、縮充という部分においては、広場だけではなくて、いろんな既存の、やっぱり公共施設も含めた上で、これから見直していかなきゃいけない部分がたくさんあると思います。管理運営費の問題、その中において、新たに設置するというのは、今回、新しく財源を持ってきたんじゃないで、その国の補助を受けられる財源と条件の中で、あそこにと

いう部分の制約がある中でやっていくわけでありますので、その制約を超えて、何か違うことをしますということにはなっていないという部分で、私、理解しているので、その制約の中で、さっきいう、あえてという言葉に使わせていただきますと、その部分を一旦広いまちづくりの一つの起点として整備をしたい。そのほかの部分についてのこれからの縮め方、これからの再編の仕方については、別途の問題があると思っております。当然、利活用で、これから市民、もしくは市外の方々が、そういう利用頻度、また、いい付随する条件がそこにあるのであれば、それらについて目配せをしていくということは十分考えられますので、これとは別途の部分で、市政全体の、これからの整備の在り方、統合の在り方については検討しなきゃいけない。その一つの例が、幼稚園・保育園の民営化の問題にもなってくる。そうするとオペレーションの問題が出てくる。そういう部分をうまくストーリー化をしていきながら、いつ、誰が、どうやってやって、協働を図れるのかという部分も見据えていきたいというふうに思っております。非常に、何ていうか、大きなまちづくりの絵の中で動いているわけでありますので、その辺のところも、いろんな部分で、皆さんからのいろんな、多様な意見がある中に進めていくということは、十分、私自身も考えなきゃなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

繰り返しになるかもしれないんですけど、偏ってるかもしれませんが、いただく意見というのも、私のとこに来てるのは偏ってるのかもしれませんが、駅北の海望公園ありますよね。駐車場がやっぱり課題だということで、駅前には遊びに行かないよという、わざわざ駅前に、あの狭い空間にドームなりが整備されても、やっぱりなかなか行かないなって、これなら外行っちゃうなという意見もいただけてます。すごく悲しいです。それを踏まえて、検討していったほしいなというふうに思います。

本当に市民が使う、申し訳ございません、今の現段階だと、あの整備図だと、人がにぎわって、誰かがあその場所に行って、駅を回ってとかというイメージが、正直、私、全くできません。例えば須沢の話しますと、須沢の臨海公園にこういう整備ができれば、こういう人の流れができて、こうなっていくだろうなというのはイメージが湧きます。今イメージが湧いてるかどうか。私の、自分の中でやっぱりイメージできるものしか形にならない、実現できないというふうに思っているものが強いので、それをちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、駅北とはかの地区の整備計画については、ちょっと別に考えていただきたい。ということは、財源が全く違いますよね。そういう部分で別に考えていただきたいという部分があって、当然、

阿部議員のおっしゃる、市民、市外の方々が集える場所、そこについての整備については、別途考えなきゃいけない。

今、駅北のイメージ、私にはイメージがあります。あそこに、公園を造ったからというイメージじゃなくて、あそこにやっぱり多様な人たちが、少なからず集うように、町なかの人たちが、自分たちは、例えば本町通りの方々だったら、自分たちはそこにあることによって、自分たちが何か違う、これからの展開を考えたいとか、こうしたいという部分が出てくるようにしていけば、まちづくりの一つのやっぱり流れができてくると思うんです。

駅北を何とかしなきゃいけないというのは、私自身、強い思いがありますので、駅北は、あそのこの公園という部分で終わらずに、駅北全体、そして、駅南まで波及できるように、新幹線駅を中心とした駅北、駅南、そこに人が交流できる場所、また、そこに降りた段階でどうするのか、それは、またイメージを膨らましていく中で、皆さんにこういう部分で協力していただきたい。こういうふうな協働で進めたい。こういうプレーヤーで参加していただきたいという部分を広く呼びかけながら、あそのこのところの、やっぱり一つの広場にした上で、周辺のまちづくりを組み立てていきたいという部分の思いで、今回、話を進めているわけでありますので、阿部議員のいう青海だとか須沢というのは、全く無視してるわけではございませんので、そういう部分の整備については、別途考えていかなきゃならないと思います。能生にしてもしかり、そういう部分はしっかりとした、糸魚川市全体の絵姿をする上では、これから考えなきゃいけないというふうに思ってますので、ぜひ阿部議員の今おっしゃることについても、こちらとしては取り入れる部分をどんどん取り入れながら進めていけばいいんじゃないかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今、市長、別計画とおっしゃいましたが、当初計画されてたのは、駅前に駅北子育て複合施設支援施設のみの計画でした。新たに、そこに広場を整備して、外に屋内遊戯施設を整備するのであれば、要は、その外に整備できるお金は補助金でないですよね、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

場所にもよりますけれども、都市計画のその区域の範囲内か範囲外によりまして、今回の国の補助金というのは適用できるか、できないかというところがございますので、例えば能生地域とかに造ったとしても、できないというところになるかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

能生地域とかそういうのではなくて、駅の周辺に造ったとしても、その駅北エリアじゃなきゃ適用されないんですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今の計画のほうで提出をしております駅北エリアが基本となってくるというふうに思っておりますので、そのエリア外ということになれば、国の補助金のほうの対象にはならないというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員、ちょっとお待ちください。

暫時休憩いたします。

〈午前11時10分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

どうぞ、質問を続けてください。

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

別計画なんでしょう、もう多分、別計画で、要は今までの駅北の計画にのっとってるんですけど、その精神とか方針はのっとってるんだけど、もうお金の出所も違うってなると、要は以前から申し上げているように、駅北の大火から復興を願って、国からも支援が下りる。身の丈に合っていないかもしれないけれどもすばらしい施設を駅前に整備して、そこに全部機能を集約していこうというのが、今までの計画だったと思ってます。そこに、それ以外では計画ができないというふうに今まで聞いていたので、外に屋内遊戯施設をやれるんだったら駅北に広場が、整備がありますよね。それを外にもできるんじゃないかという話をしています。そうやったほうが、これからの糸魚川市を見たときに効果的なんじゃないかというふうに思ってます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ちょっと私が論点とするところが、一旦駅北に国の財源を使って、そこに前の計画で、いわゆる建物を建設するという部分について中止にします。

ただ、駅北について国の財源を利用して、汎用性のあるものを造りたいという部分の発想から、現時点で広場等への計画に見直しをかけているという段階であります。将来的に、じゃあ、それを使う人はいないと思いますよという余談なき部分で判断をされているのかどうかという部分は、今度、市民の皆さんに説いていかなきゃいけないんですけども、でも市民の皆さんに問うに当たっては、こういうふうな建設を中止して見直しをするという、まず、スタート時点で皆さんにご提示する。議会の皆さんにご提示する。今、そのご提示している内容の中で議論をしている最中であるという部分。その中で、阿部議員が懸念している部分で、予算が違う、趣旨、事業の計画上は、その限定されている駅北についての部分である。ほかのところについては、また財源措置が違ってくる。一貫性がないという部分の意見も頂戴しているという部分で、受け止めなきゃいけない部分は受け止めていますけども、現時点で検討・討論していく中においては、一旦その駅北において、前整備計画と、これから進めようという整備計画に絞って、少し検討していきたいというふうに思っております。

そういう中で、いろんな説明不足の中を、じゃあ、これどうするんだ、こうなったらどうするんだという部分については、これからの検討案件として今現時点でも進めている部分もありますので、その辺のところは順次、皆さんのほうにご提示・報告をさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

市長は、今までバックキャスティングという言葉が口にされてきました。現状では、市長は、人口3万人という数値の将来予測しか示していないなというふうに思ってます。肝腎の未来の姿というのが語られていないというふうに受け止めてます。

本来のバックキャスティングというのは、人口規模のような数値ではなく、例えば子育てや教育環境はどうなっていく、駅前や各集落、中山間地はどのような姿で残していくといった、暮らしや産業、都市の具体的な未来像を描くことだというふうに理解しております。

そこで何うんですけれども、市長は10年後の糸魚川をどのような暮らし、どのような産業、どのような都市構造を持つまちにしたいとお考えなのか。

また、今回の駅北広場整備は、その未来像の実現にどうつながって、どういう影響を与える整備になるのか、単なる数値ではなく具体的な未来像をお示してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

今、市で進めている第3次総合計画がございます。今度は、第4次総合計画に入っていきます。その第4次総合計画に入るときに、庁内でそれらを議論しながら進めていきたいと。一番大本になるのは人口3万人となる10年後の予測に基づいて、税収の問題、地方交付税の問題、それらを踏まえて、今ある第3次総合計画までしつらえてきたものに対して何を見直したほうがいいのかという部分は、それは全庁挙げて検討をしていくという部分であります。現時点で、個々具体的な案件については、やっぱり担当課、全庁を挙げての、これから予算組みの中で出てきますので、現時点で私が一つ一つ細かくここで答弁してしまうと、それにこだわってしまいますので、そうではなくて、人口3万人になるという最終的な状況の中で、今まであったものについてどうやって見直していくのか、縮めていくのか、新しいものを入れるとしたら何ができるのかという部分をこれから検討していくということですので、現時点で庁内業務に差し支えるような答弁は、ちょっとできないと思いますので、現在の中において今、そういう部分で、庁内では、これから第4次総合計画にしっかりと定めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

次に移ります。

大きい2番、投票、期日前投票のお話しさせてください。

本当に最近、期日前投票多くなってきて、先般の参議院選挙では、投票した方の半数以上が期日前で投票したという経過があります。

一方で、高齢者の方からは、投票のためだけにタクシーを使うのはちょっとしんどいというお声もいただいておりますが、そういった声というのは市のほうには届いてますか。

また、これをどのように受け止め、どう改善していくお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えいたします。

個々の方から個別に意見というのは、なかなか聞こえない部分もございますけれども、各地区のほうからは、やはり投票所の運営が、なかなか役員の成り手不足というところもあって苦慮していることから、開設時間を短くしてもらいたいとか、場所について考えていただきたいという声は、選挙管理委員会のほうには届いております。選挙管理委員会のほうでも、またいろんな数字を分析して、地区のほうと協議をしながら、投票所の在り方について見直しをしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

現状、当市における啓発活動というのは、周知の活動がほとんどで、投票行動に実際に直接結びつく取組というのは、まだまだ不十分なんじゃないかなというふうに思っております。市では、期日前投票が全体の半数を超える割合となっている。先ほど紹介した高齢者の声として、スーパー等に投票所があればうれしいというふうなご意見もいただいておりますが、周知にとどまらず、市民が投票しやすい環境を整える取組として、試行的に市内商業施設で期日前投票所を検討するお考えないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

他市の例では、商業施設のほうに期日前投票所を設けている例がございますし、あるいは移動式のバスで各所を回って期日前投票を受けるところもございます。それぞれのやり方を参考にしながら、糸魚川市としてどういう形がいいのか、それは商業施設も含めてになりますけれども、より多くの方から投票していただけるようなやり方について検討をしてみたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

先進地事例として、島根県の浜田市というところが、近隣自治体で導入されている巡回式の期日前投票所というのを検討したんですけれども、施設運営に効率面で課題があったということで、車両そのものを投票所にする方式を考案して、全国初の移動式、その車自体が投票所になるというものをやっています。これは投票に行くという発想じゃなくて投票所が来るという発想で、過疎地であったり、高齢者地域の投票機会確保に大きな効果を上げております。当市でも、これから投票区の再編、時短というものもあるんですけれども、移動式の期日前投票所を検討するお考えないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

移動式のほうが、また糸魚川によりフィットするとか、そういう要望があるということであ

れば、もちろんそういうことも検討してまいりたいと、選挙管理委員会のほうでは協議してまいりたいと思っております。

以上です。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、阿部議員の一般質問を終了いたします。

11時30分まで暫時休憩といたします。

なお、昨日申し上げましたとおり、なるべく昼をまたがない一般質問というのを今回やってみたいと思っておりますので、次の宮島議員の質問が、12時を回る場合であっても、終わるまで一般質問を続けますので、皆さんご了承いただきたいと思います。

〈午前11時22分 休憩〉

〈午前11時29分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。〔11番 宮島 宏君登壇〕

○11番（宮島 宏君）

翠新クラブの宮島 宏です。

本日は、4項目の一般質問をさせていただきます。

1、豪雨時の水害対策と豪雪時の屋根雪下ろし対策について。

地球温暖化は、大気中の水蒸気量の増加や海水温上昇により、豪雨・短時間強雨の増加、酷暑、渇水、台風の強大化、高潮など、気象災害をより激甚・頻発化させる主因とされています。

また、地球温暖化は、日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）による局地的な大雪の頻度や強度に影響する可能性も指摘されています。

以上の傾向は今後も継続するとされ、生命・財産・生活基盤への脅威が高まるため、気候変動とその影響を理解し、適切な対応策と防災対策の実施が急務です。

本日は、局地的豪雨と局地的豪雪への対策について伺います。

(1) 防災ハンドブックには河川の氾濫による浸水域と浸水深が図示され、それらは津波によるせり上がり浸水深や浸水域の予想を上回るものとなっております。豪雨による水害対策の現状、一般市民への周知状況及び今後の方針について伺います。

(2) 労働安全衛生法施行令が一部改正され、業者が行う屋根の除雪作業では、転落防止用安全帯を取り付けるアンカーが必須です。つまり、アンカーがないと屋根の除雪作業ができません

ん。しかしながら、屋根雪下ろしが自力でできない市民の住宅には、アンカーが設置されていない場合があります。業者は委託されてもアンカーがなければ除雪作業が合法的にできないことになります。市の対応について伺います。

- (3) 公的施設の屋根雪下ろしでも同様のことが言えます。小滝地区小体育館など多雪地域に位置し、屋根雪下ろしが必要となる公的施設のアンカー整備状況と今後の方針について伺います。

2、デジタルトランスフォーメーション（DX）の業務や教育への活用についてです。

2023年5月に糸魚川市DX推進計画が作成され、本年度は5か年の推進計画の中間の3年目となります。当市の一般行政と教育行政での生成AI（人工知能）とRPA（ロボットによる業務自動化、ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入状況とその効果及び運用して顕在化した課題について伺います。

- (1) 一般行政と教育行政への生成AIとRPAの導入経費と運用経費について伺います。
(2) 一般行政での生成AIとRPAの導入による効果と課題について伺います。
(3) 児童生徒と教員による生成AIやRPAの利用状況と教育的効果、課題について伺います。
(4) 生成AIとRPAの導入によって削減できた職員の勤務時間について伺います。
(5) 生成AIとRPAによる業務効率化以外に、導入によって新たに発生した価値や、職員や児童生徒の意識改革について伺います。

3、公務員の盗撮事件の頻発についてです。

公務員、特に教員による犯罪が全国的に相次いでいます。中でも本年6月に発覚した複数の教員による盗撮画像共有事件は極めてショッキングなものでした。8月下旬には盗撮で逮捕された栃木県の県立高校の教師の前任校から、盗撮用カメラが複数発見され、常習性も指摘されています。新潟県でも本年になってから、電車内で盗撮しようとした高校教員が懲戒免職になり、教育委員会の課長を兼務する博物館の館長（学芸員）の市職員が、盗撮で逮捕されています。

新潟県教育委員会は、教職員による犯罪抑止をテーマとした臨時校長研修会を8月4日に開催しております。他県でも盗撮事件の続発を受け、様々な対応がされています。

- (1) このような事件を受けて、糸魚川市と糸魚川市教育委員会の対応について伺います。

4、ジオパークのまちについてです。

前市長は、本年4月23日の退任の挨拶の中で「ジオパークを生かして、合併後の一体感の醸成に取り組んできた。」と述べています、報道機関は、20年間の前市長の主要業績として2つ上げております。1つ目は、ジオパークによるまちづくり、2つ目は、駅北大火からの復興事業の推進であります。

ジオパークのまちは、2008年以降当市のキャッチフレーズに頻繁に用いられてきました。以下、ジオパークを中心に市長の見解を伺います。

- (1) 前市長が推進してきたジオパーク事業についての評価と今後の方針について伺います。
(2) ジオパーク関係者で問題となっている4年に一度の再審査やその方法についての見解について伺います。
(3) “ヒスイとフォッサマグナのまち”、“ジオパークのまち”、“相撲のまち”、“石のまち”これらは、糸魚川市の特徴を端的に表現するキャッチフレーズで、これまでに発案され

たものです。今でも使われているものが、数多くあります。市長は“縮充のまち”など当市の新たなキャッチフレーズの考えはありますか。

- (4) 私は縮充には、「人口が減っても心豊かな充実した暮らしを紡ぐ」という意味のほかに、「あるものは充実させ、あるものは縮小する」という意味もあるのではないかと感じております。市長の見解を伺います。

以上、1回目の質問です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、一級河川姫川は、国が主体となって、堤防の浸食対策などを継続して進めております。県が管理する二級河川では、伐木や河床の掘削・整備などを継続して進めております。

また、5年度に市内全世帯へ洪水と土砂災害をまとめた防災ハンドブックを配布し、避難訓練での活用やマイタイムライン作成などの普及を図っております。

今後も豪雨による水害から市民の生命と財産を守るため、国や県と連携しながら、治水対策、防災・減災対策を着実に推進してまいります。

2点目につきましては、命綱固定アンカーや転落防止柵等の設置に対し支援しておりますが、引き続き、制度周知に努めてまいります。

3点目につきましては、既に設置されている施設もありますが、必要な施設については8年度までに順次整備してまいります。

2番目の1点目につきましては、RPAは2年度に導入し、その経費は約168万円であり、運用経費は1年当たり約110万円であります。生成AIにつきましては、本年度中の導入に向けて試行している段階であり、経費は発生しておりません。

2点目につきましては、RPAの活用により予防接種記録の入力など、3つの業務について自動化処理を実施し、業務時間の削減を図っておりますが、より広い業務においてRPAを普及させ、事業効果を上げていく必要があると考えております。

3点目につきましては、今後、学校においてどのような活用ができるか、検討してまいります。

4点目につきましては、6年度において、RPAの活用における職員の業務削減時間数は、246時間あります。

5点目につきましては、活用を進めるのに併せて、教職員や児童生徒の意識の変化についても注視してまいります。

3番目につきましては、8月に全職員を対象としたコンプライアンス研修を実施しております。

また、教育委員会では、7月に教職員を対象とした情報モラル研修を実施しており、各学校においても定期的に非違行為根絶研修を行っております。

4番目の1点目につきましては、教育をはじめ、環境保全や地域振興など、様々な分野で実績があると評価しており、今後も当地域ならではの強みを生かして活動するとともに、より経済効果を

高めるよう推進してまいります。

2点目につきまして、再審査は現行のプログラムでは必要であり、方法については、おおむね適切に行われているものと捉えております。

3点目につきましては、地域の歴史的な背景や市民の様々な活動から、自発的に「丸々のまち」といったキャッチフレーズが生まれることは、地域の魅力や歴史文化を発信する好機になると考えております。

4点目につきましては、選択と集中を意識する中で、縮小するもの、充実させるものを市民の皆様と共に考え、共に行動することで、自分らしく生き生きと暮らせるような取組が必要であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

順番に、2回目の質問をさせていただきます。

最初に、1番の（1）ですけれども、山岳地域が約90%を占める本市では、海岸沿いと川沿いの平たん地に多くの人々が住み、多くの水田があります。この平たん地には、沖積層と呼ばれる約1万年前の最終氷期以降に、河川の氾濫で堆積した未固結の砂礫や泥から成る地層が分布しています。つまり、私たちが暮らしている平たん地の多くは、過去の河川の氾濫によって形成されたものです。

本市の洪水ハザードマップで想定されている浸水域は、河川の流域の両岸だけではございません。「ブラタモリ」でも紹介されましたが、日本海沿岸の砂丘の陸側にある後背湿地と呼ばれる低地が広く浸水域になっています。例えば海川の洪水時の浸水域は、竹ヶ花付近から横町2丁目付近まで東西3.3キロに及び、日本海ひすいラインの海側だけでなく、山側も浸水域になっています。度々話題になる駅北エリアだけではなくて、駅南エリアも浸水域になっているわけです。青海川、姫川、早川、能生川についても同様で、居住者が多い地域が浸水域となっています。

市議会の名簿に基づいて調べたところ、市議18人中13人が洪水の浸水域にお住まいです。このように、津波より、より影響する範囲が広く、さらに頻度も高いと予想されるため、普及活動や避難訓練が必要と考えます。実態と見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

住民へのそういったハザードの周知につきましては、ハザードマップの配布だけではなくて、出前講座を通じても行っております。また、地震、津波だけではなく、河川氾濫についても啓発を行ってきているところであります。実際には、能登半島地震が起きると、その地震災害に

ついでの出前講座の要望が多くなるといったように、実際の災害に伴って、そういった啓発のチャンスといえますか、皆さんにお話しする機会というのが参るかと思しますので、機会を捉えまして、河川近くの地域におきましては、河川氾濫ですとか浸水についての注意喚起、引き続き行っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

出前講座は、よりタイムリーな話題がやっぱり関心度も高いと思いますので、地震の直後に津波の出前講座、それは非常にいいことだと思います。

ただ近年、近年というか今年だけでも線状降水帯の被害、それから竜巻とか、そういったものがございますよね。そういったものを見て、的確に出前講座を計画していただきたいと思います。

防災ハザードマップなんですが、市外から毎年、何人かの人が引っ越してきます。教員も異動に伴って、糸魚川市にやってきます。そういった人たちに防災ハザードマップの冊子はお渡ししてるんでしょうか。

〔「暫時休憩をお願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時45分 休憩〉

〈午前11時45分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

市民課の窓口のほうで置いてあると思っております、そちらをご確認いただけるものというふうに思っております。

○議長（古畑浩一君）

ちょっと待って。今さ、市民課のほうに持ってると思いますって言いましたよね。だけど今、休憩取って確認したんじゃないですか。置いてあるなら置いてあるとはっきり、あとねそういう曖昧な答弁の言葉をやめるようにね、もう一回お願いいたします。

○消防次長（中村淳一君）

失礼いたしました。市民課のほうにハザードマップのほう置いてありまして、そちらのほうを手にとっていただければ分かるように、また、市民課のほうから勧めていただくように努めていきます。

いというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

全戸配布している資料ですから、引っ越された方にこういうのあるよじゃなくて、資料として提供するのが筋なんじゃないかというふうに思いました。

次に、洪水ハザードマップで、当市のもはですけども、ちょっと問題があるというふうに、幾つか消防のほうには指摘させていただきましたが、その中で僕は大事だなと思うのは、浸水が、どれだけの範囲じゃなくて、どれだけの時間、要するにどれだけの時間、水がたまってるのか、そういった情報が非常に大事だと思います。例えば上越市のハザードマップには、そういった情報が時間別で、12時間以内とか12時間以上とか、そういった色分けで書かれています。そういった情報が、糸魚川市ハザードマップにはないということをまず指摘させていただきます。

それからもう一つは、指定避難所というのがあります。災害時にここに避難しなさいというものですね。洪水ハザードマップの中に指定避難所もちろん書かれてますが、その指定避難所のかなりの割合で浸水域にあります。さらに見ると、平家建ての指定避難所もあるんですが、当然、床上浸水のする可能性がある指定避難所になってしまいます。こういったものは、見直していただく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

まず、浸水の継続時間ですか、そちらのほうにつきましては、国・県が公表している3つの河川につきましては、ホームページ上で確認しております。

ただ、そちらの周知につきましては、まだできてない部分がございます。今後、ハザードマップ等を作成する際に検討のほうはしていきたいというふうに思ってます。

指定避難所につきましては、防災のハンドブックにも掲載しておりますように災害の種類によって、マル・バツ、三角といったような表記をさせていただいております。例えばバツですと、その災害時には指定避難所とはしないといったこともありますので、そういったところのチェックをいま一度、今議員おっしゃられたように、浸水の時間ですとか想定区域等を照らし合わせて確認をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

水が入ってきて浸水すると、下水道が機能不全になる可能性があります。その場合、浸水域の中はもちろんですけれども、その外側、近傍でも、水洗トイレが使えなくなる。あるいは今いろいろ設置を続けているマンホールトイレも使えなくなるということがあります。これも当然、防災担当では承知されてるとは思いますが、一応ここで指摘させていただきます。

次に、ハザードマップで想定されている雨量が想定最大規模というものなんですけれども、残念ながら当市のハザードマップには、どのぐらいの雨量を想定してるのかという表示がありません。

一方、上越市は、各河川別にそれぞれ想定雨量が書かれています。気象庁のホームページを見て、気象庁の雨量というのは1976年以降、約50年間、1日の降水量というものが調べることができます。現在も歴代20位まで、50年間の歴代20位ですね、そのうちの半分が、この25年間に起きてるんですよ。いかにこの半世紀の間に雨が多くなってるか。ですから、めったに起きない雨じゃなくて、本当に今そこにある危機という形で捉える必要があると思います。

姫川ではですね、先ほど市長がお話になったように、国が堤防の改良工事、それから河道の掘削などをしていただいています。

ただ、海川、一番糸魚川市の中心市街地に影響が多い海川については、確かに堤防の工事はされてます。だけどそれは、一部壊れたものを補修する、そういったものでとどまってるんですね。今後起きるかもしれない大規模な水害に備えて堤防のかさ上げとか、そういったものではないようなんですよ。その辺は、県のほうにも十分相談して、一番糸魚川の中心市街地に影響する河川です。姫川より実は危ないんです。それを承知していただいて、今後進めていただきたいと思います。この件についてはいかがでしょうか、海川の。それから、海川だけでなく早川とか、青海川とか能生川も同様です。ですから、糸魚川の主要な河川のほとんどは、人口集中地域に大きな水害を与える可能性があるということも、ぜひ知っというてほしいし、周知してほしいし、対策を県・国に積極的に要望していただきたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話ありました海川につきましては、河川管理者であります県のほうから、河川断面を確保するために、河道掘削とか、あと河川内の伐木等を重点的に進めさせていただいております。

同様に、能生川、早川、青海川等につきましても、毎年、河道掘削及び河川内の伐木を実施していただいているところでございます。今後も、県のほうと連携を取りながら、定期的な河川点検等によりまして、堆積状況などの状況を把握しまして、継続的に河道確保を行うように、当市としましても、引き続き県のほうに強く要望していききたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○ 1 1 番（宮島 宏君）

釈迦に説法ですけども、単純に河道掘削すると兩岸の堤防の底をいじることになりますので、ある意味、危険な行為なんですね。ですから、ただ掘ればいいというものではないということを指摘しておきます。

雪下ろしについてなんですが、建設課のほうでは、雪下ろし安全対策（転落防止設備の補助事業）をやっております。

一方、福祉事務所では、自力での除雪が労力と金銭の両面で困難な高齢者世帯向けに、その経費を一部助成する、屋根雪場施設等費用助成事業があります。福祉事務所のこの助成事業は、申請しても、屋根に転落防止用のアンカー等がないと、結局業者さんは除雪できないんですね。その状況を見て、例えば福祉事務所さんと建設課さんで種々の連携はされてるんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

連携ということにつきましては、降雪前の 1 0 月から 1 1 月にかけては、民生委員の各地区の会議のほうに福祉事務所と建設課の職員が出向きまして、安全対策について、リーフレットを基に説明をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○ 1 1 番（宮島 宏君）

福祉事務所さんの屋根雪の除雪の助成事業の申請書、それは市のホームページにももちろん出てますけれども、見ると、屋根に安全なアンカーが取り付けられてますかというチェック欄がないんですよ。例えばその申請書を基に、福祉事務所にある方が申し込んでいらしたとします。だけど現実には、アンカーがなければ駄目だよということになってしまうわけですね。そういったケースって今までどのぐらい、年間にあったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

件数は把握しておりませんが、業者によりましては、連絡したらアンカーがないということで断られているケースはあるというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今のケースをお聞きすると、屋根の雪がいっぱいあって本当は下ろしていただきたいんだけど、合法的に下ろせないがために、そのまま放置されてるということになるのかなと思います。

今度は、生成A IとかR P Aの話なんですけど、学校関係の利用についてはこれからだということなんですけど、教育委員会に伺います。

学校以外で生成A Iをどの程度使っているか、把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

児童生徒が学校以外で生成A Iを利用しているかという状況につきましては、教育委員会としては、現状では把握しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

モバイル社会研究所というものが、今年2月に小中学生の生成A Iの利用率について発表しています。それによると、全国の小学校高学年で5%の子供が、生成A I使ってる。中学生になると13%が使っているということで、この数字は、年々かなり増えているということです。

教育委員会に伺いたいんですが、子供たちが生成A Iを使うことについて、よしと考えてますか、それとも、これはやめたほうがいいものと考えておりますか。全然状況を把握されてないようですが、どういうスタンスで教育委員会では見てるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

子供たちが生成A Iを利用することに関しては、今後そういった生成A Iを利用していくスキルを身につける上では必要なことだというふうに考えております。

ただ、現状としまして、教育の現場に生成A Iを性急に取り入れることについては、もう少し検討が必要なんではないかというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

生成ＡＩは、もろ刃の剣というか、いい部分もあるし、危ない部分もあるということは承知しております。

ただ、生成ＡＩを抜きに、今後の日本社会、世界は語れない状況になっています。

地域別に中学生がどのぐらい生成ＡＩを使っているかという調査もあります。関東地方の中学生は、約１９％使ってます。

ところが、新潟県を含む北陸甲信越は、全国で最も低い利用率になってるんですね。ですから、関東地方の中学生と比べると生成ＡＩの利用について、もう既に中学生の時点で遅れてしまってるわけですよ。生成ＡＩについては、いろんな研究を早めにしていただいて、どのように教育に導入するのが望ましいのか。隣の朝日町では、かなり早くから生成ＡＩを学校の授業に既に取り入れています。そういった先進事例がありますので、ぜひ早めに研究していただきたいと思います。これ要望です。

次に、盗撮の問題ですが、市で、先ほどのお話で職員向けにいろんな研修を、注意喚起を促す研修会を開いたりということでした。

ここで聞きたいのは、現実に管理している施設、学校も含めてですね、それから市で業務委託している施設、指定管理をしてもらっている諸施設に盗撮用のカメラがあるかどうか、そういったチェックはされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、市役所の本庁、能生、青海の事務所、また、市が所管している施設等について点検のほうを報告を求めましたところ、異常はないというところで報告を受けております。

ただ、本当に悪意を持った、例えば穴を開けて中に隠してしまってるようなものまでは、そこまではなかなか対応は難しいという印象はっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○１１番（宮島 宏君）

そのチェックは、極めて甘いと思います。盗撮をする人というのは、悪意を持って盗撮してます。単なるいたずらじゃないんですよ、悪意を持ってる。だから、いかに見つけられないようにするかというのは、巧妙です。ホームページを見ると、どういうところにどんなものが隠されるか、隠されているかというのがみんな出てますので、ぜひ研究してください。例えば、先ほどの話の指定管理のところも含んだ話ですか、今の答弁。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

庁内のほうでは、所管施設の確認時をお願いしたいということで、全体を含めて周知喚起をしています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

市が持っている施設というのは、トイレがあるだけじゃなくて、中には更衣室とかそういったものもありますので、十分チェックをしていただきたいと思います。

それから次に、僕は教職員、あるいは公務員の盗撮ということで先ほどお話ししましたが、生徒による盗撮も、実は多く発生しています。

警察庁によれば、2023年7月から約1年ちょっとの間に盗撮で検挙された中学生は83人、高校生は300人です。盗撮はいたずらじゃありません。犯罪だということで、そういったチラシを作っている警察や教育委員会も全国ではありました。加害者になる可能性もあるということで、子供たちにもそれは十分注意していただきたいと思います。スマホは誰でも持ってます、中学生以上になるとね、かなりの割合で持っています。それを更衣室に、あるいは更衣する場所に置いて、問題になったということは多々ありますので、そういった注意喚起は、学校のほうでされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

子供たちに、自分たちが撮った画像とかの中にはほかの人が写っているといったような場合が結構あるかと思います。そういったものも含めまして、自分以外のその写真とかデータについての取扱いについては、現在、教育委員会のほうで進めている情報モラル教育のコンテンツの中にも含まれておりますし、また、そういったことに関して各学校で専門家、警察ですとか弁護士さんですとか、そういったような方をお呼びして、子供たち向けに講演会を行うことにより啓発を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

ぜひ情報モラル教育を充実させていただきたいなと思います。

実は、この盗撮に関係して、つい最近なんですけれども、札幌市の教育委員会は、市内の幼稚園や小・中学校の教職員に対して、私物のスマートフォン、あるいはタブレット、そういったものを

教室、体育館、プールなどに持ち込んではいけないというルールを出しました。それだけ全国で公務員、教員の盗撮が多いということなんですね。かなり極端な対応だと思うんですけども、札幌市教育委員会だけでなく北海道教育委員会も、同様の方針というふうに報道されてます。

このような方針を聞いて、糸魚川市教育委員会としては、どのような見解を持たれましたか。あるいは、どのような対応を今後していきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

教育委員会としましては、やはりスマートフォンを先生たちが教室ですとかそういったところに持っていくのは、好ましくないというような状況はあるというふうに考えております。

ただ、ただですね、緊急時にスマートフォンを身につけていないと困るといったようなケースも考えられますので、その辺については各学校等でいろいろな状況を勘案する中で、ルールを決めて、行っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今、課長がおっしゃったことですが、能登半島地震の後、今までは、教員はスマートフォンを教室に持っていったなかったけれども、より情報が早く得られる。あるいは緊急地震速報とか来るので、意図的にスマートフォン等を教室に持っていきなさいという指導をしているところもあります。

ただ逆に、そういったことを指導していないところもあるんです。そういったまちまちな対応は、あまりよくないんじゃないかなと思います。教育委員会として、統一した方法、例えば教室に持っていった方がいいけど、例えばこういったところは駄目だよとか、そういったルールづくりが分かりやすいんじゃないかというふうに思いました。

最後の4番目のほうに移ります。

ジオパークの諸問題なんですけれども、先ほど市長からは、いろんな有益な効果があったし、認定については、特に問題は感じていないというような趣旨のお話でした。私は、効果的には非常に大きなものがあったというふうに思ってますけれども、認定については、私、ジオパークのガイドですけども、大いに問題あると思っています。今後も、これは積極的に取り上げたいと思っています。

地域資源の有効活用によって、1市2町の一体感を醸成できたということを前市長は言ってます。私も、ジオパークというのは非常にいいまちづくりのツールだというふうにずっと言ってきました。

9月5日の一般質問で市長から、STEAM教育の話がありましたね。サイエンスとかテクノロジーとかエンジニアリングとかアート、マスマティクスですか、いろんな学問を統合した教育が、STEAM教育ということなんですけど、まさにジオパーク教育も地質学とか地形学だけじゃなくて

生物とか産業技術遺産、環境など統合したもののなんで、まさにSTEAM教育に通じるものがあるんだと私は思います。これは、ジオパークも良い部分。

ただ、当然ご存じだと思いますけども、繰り返しになりますが、言わせていただきます。

ジオパークならではのルールが、当市にはなじまないものがあります。例えば石灰石の利用は100年以上の歴史がある当市の基幹産業です。地方港湾である姫川港が、リサイクルポートになっているのも、この長年にわたる石灰石鉱業があったらこそです。リサイクルポートは言うまでもありませんけども、災害で発生した物の引受けとか、それから再利用化といったもので、日本に大きな貢献をしている港です。

ところがジオパークでは、石灰岩の鉱山は自然破壊をしている悪いやつ、そういった位置づけです。言葉はそういったもの使ってませんけども、要するにジオパークでは、取り扱ってないんですよ。

最初、私がジオサイトを決めるときに、鉱山も当然、ジオサイトで選んでました。そしたらNG、要するに自然破壊の現場は、教育とかジオパークには使っちゃ駄目だよと。現状のホームページ見ると、石灰岩工業の話は一言も出てません。それから、リサイクルポートも一言も出てないんですよ。これはね。大きな問題あると思います。

鉱工業を認めないジオパークは駄目だということで、オーストラリアは、世界ジオパークから撤退しました。要するに国としてなじまないというふうに判断したんですね。現状で日本のジオパークは、まちまちです。あるところは、受け入れてるし、でも糸魚川の場合は、石灰岩鉱山をジオサイトとして認めないなんていうジオパークは、果たしていいのかということに訴えたいと思います。

ヒスイも大きな問題を受けてるということは、ご存じだと思います。例えばヒスイの大きなものは、販売しちゃ駄目。それからヒスイ以外の鉱物・化石は、販売しちゃ駄目。単なるお土産だけじゃなくて、皆さんが中学生とか高校生のときに地学とか理科の授業で化石とか鉱物がいっぱい入った箱があったと思います。それ教材です。そういったものすら、ジオパークの中で売るとは禁止されてます。土産だけじゃない、教育すら駄目なんです。こんな状況でいいのかと、私はずっと訴えてきましたけども、前市長は、それでもいいんだというスタンスで、ずっと日本ジオパーク、あるいは世界ジオパークの方針を受け入れてきました。

私が今出した問題点は2点だけですけども、ジオパークの観光ガイドから、ジオパークというものの縛りがあまりにもきついので、いっそのことやめてですね、糸魚川ならではのジオパークというものを独自に推進したほうがいいんじゃないかという意見すら出てます。ご存じのように、ジオパークって言葉は糸魚川が最初に使いましたんで、やめたとしてもジオパークという言葉は引き続き使うことができます。もし正式なプログラムから出れば、鉱山もちゃんと取り上げられるし、リサイクルポートも取り上げられるし、ヒスイとか教材用の標本だって売ることができる。

本日、チリにミュージアムの学芸員が行ってます、ジオパークの国際学会がやってる。その国際学会は、4年に一度やってます、世界ジオパーク。それからアジア太平洋の世界大会が、その間にあります。つまり2年に一度、ジオパークの国際大会に参加する義務があります。当然、大きな費用が発生しますし、4年に1回の審査についても大きな費用を負担しなければならない。そういった問題は、ぜひ久保田市長も今後、市長になられたばかりですけども、ほかの区長たちがどういう考えなのか、そういったものを市民の考えを聞いて、よりよい落としどころを見つけていただき

たいと思います。

あと2分40秒。20年ぶりに市長が交代して、新しい船長の、かじ取りに物すごく大きな期待があると思います。そのネオ糸魚川丸という船を象徴するような魅力的なキャッチフレーズを考案してですね、市長自らですよ、考案して、市政を推進していただきたいと思います。お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

今、宮島議員のほうから、そういうご提案がございました。ぜひ糸魚川にふさわしいネーミング、そういうものをつけていきたいと思います。

また、やっぱり先ほどのジオパークの件でありますけれども、やっぱりこれから基幹産業である産業との共生の道というものを探っていかなきゃいけない。

それと、今回、私に替わりまして、ジオパークも稼げる力を持とうという部分で、非常に悩ましい問題でありますけれども、稼げるためのジオパークづくりというのは、今後、検討しなければいけないと思っております。ぜひネーミングについては、いろんな駅北の先ほどのパブリックコメントとかいろいろありますけれども、そういうことも踏まえて市民の声を、やっぱり多様な声を聞くという部分は重要だと思いますので、これからの対話の中で、そういう部分をお聞きしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

縮充の町に関して、ちょっとお話しします。

兵庫県の西部に佐用町、佐藤の「佐」に用いる町、人口1.4万人の町がございます。この町は科学の世界で大変有名なSPRING-8（スプリングエイト）がある町なんですけれども、実はこの佐用町は、2年前から縮充のまちづくりというのに取り組んでいます。今年7月には、全国初となる縮充のまちづくり宣言をしています。

次に、最後1分30秒の間に、佐用町の取組について関連させた質問をいたします。

市長は、縮充を、人口減少を悲観せず、社会、地域、生活の質を充実させるまちづくりとされてました。これは、市長選のパンフレットです。

一方、佐用町の縮充の定義は、「縮」は、これまでの負担を減らして心を楽しむこと。「充」は、この町の暮らしを思い切り楽しむこと、つまり楽しむと楽の2つの文字で表してます。これは大変分かりやすい説明だと思います。

今回、敬老会で市長が挨拶の中で、「上を向いて歩こう、いつでも夢を」というフレーズを出されました。これは非常にタイムリーで分かりやすいし、さすがは久保田市長だなと思いましたけど

も、今後、市民のほうに分かりやすい言葉で市長の進め方を伝えられるようなフレーズをぜひ早めに作っていただいて、これからの新糸魚川市の推進に頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

この9月30日に縮充という観点で、職員の研修会を行います。今回、高校魅力化も含めた上でのこれからの在り方について、縮充という言葉の意味を含めて、職員がまず理解して、それならばこういうネーミングがいいんじゃないかという部分は、職員のうちから湧き上がってくるように、今後、仕向けていきたいなと思っております。いろいろありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

宮島議員、これで質問終わりますとか、一応、終結の宣言をお願いいたします。

○11番（宮島 宏君）

大変失礼いたしました。

これにて、私の一般質問を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、宮島議員の一般質問が終了いたしました。

昼食時限のため、13時20分まで暫時休憩いたします。

〈午後0時18分 休憩〉

〈午後1時20分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。〔10番 田原洋子君登壇〕

○10番（田原洋子君）

こんにちは。田原洋子です。

通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、災害関連死ゼロを目指す避難所運営について。

災害関連死とは、地震、津波、洪水などの自然災害において、建物の倒壊や火災などの直接的被害ではなく、避難途中や避難生活などにおいての精神的、肉体的負担が原因で亡くなることです。

過去の災害では、狭い避難所暮らしや車中泊で同じ姿勢を長時間続けることで、足の血管に血の塊（血栓）ができ、血栓が肺の血管に移動し、呼吸困難や激しい胸の痛みを起こすエコノミークラ

ス症候群の危険性と予防の重要性が取り沙汰されています。

２０２４年１月１日に発生した能登半島地震の避難行動の反省を生かし、避難所運営、避難所生活について、市民一人一人が理解を深めることが必要だと思われます。

自主防災組織、消防団だけではなく、近年では防災意識、知識、技能を生かして、啓発活動に当たり、大災害に備え、自助、共助、協働を原則として、防災力を高める活動を行う防災士の育成が進んでいます。

また、糸魚川市では２０２５年３月１６日に糸魚川市民会館において、各地区の自治会や自主防災組織の役員を対象に、火災対応の防災リーダーの研修が行われました。

さらに、地域で活動する際に必要な知識や技術等を身につけることで、災害時にリーダーシップを発揮できる防災リーダーは、避難所運営に必要な人材となることが期待されています。

しかし、防災士や防災リーダーが自分の地域にいるのか、誰が防災士、防災リーダーなのか不明のため、多方面と連携ができていないのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 防災士と防災リーダーは、糸魚川市内に何人いて、指定緊急避難場所、指定避難所の各所に配置できる人数は足りていますか。
- (2) 避難所対応の防災リーダー研修会を行う計画はありますか。
- (3) 糸魚川市内の防災士、防災リーダー同士が連携するための交流会を開催する考えはありますか。
- (4) 防災士、防災リーダーをどう活用していきますか。
- (5) ジュニア防災リーダーとして、小学生、中学生、高校生向けに糸魚川市独自の研修制度を設けるつもりはありませんか。
- (6) ８月３０日に実施された糸魚川市総合防災訓練で見えてきた課題は何ですか。
- (7) ボトルに防災グッズを詰めてふだんから持ち歩いたり、学校、職場に置く方法があることを周知する計画はありますか。

２、糸魚川市の観光満足度向上について。

令和７年は８月９日からの三連休と、お盆休みと週末が続いたことで、糸魚川市には多くの観光客が訪れました。

百名山の雨飾山、白馬岳、海拔ゼロメートルから始まる拇海新道を朝日岳まで縦走するなど登山客も多く、ヒスイを探しに、えちご押上ひすい海岸を目指す方もいます。

また、マリンドリーム能生は、ベニズワイガニだけではなく、海洋高校出身の大の里関が横綱に昇進したこともあり、海洋高校のアンテナショップがあることから、注目度がさらに上がっています。

しかし、マリンドリーム能生に行くバス路線である仙納線と能生・労災病院線は、どちらも日曜・祝日、８月１５日、１６日、１２月２９日から１月３日の間は運休で、仙納線の一部の時間は土曜日でも運休のため、週末、お盆、年末年始に糸魚川駅まで鉄道で来られた観光客は、レンタカーを借りるか、能生駅か能生案内所から歩く以外に移動手段がなく、マリンドリーム能生に行くのが難しいのではないのでしょうか。

また、北陸新幹線に接続する大糸線の運行のない時間帯のＪＲ大糸線増便バスは、糸魚川駅を

11時55分に出発する2便は、金沢方向から到着する北陸新幹線と乗換え時間が8分しかなく、南口からバスが発車することに気づかず、新幹線を降り、改札を出て、大糸線の改札口に行っても券売機では行き先の白馬駅が見当たらず、窓口でも南小谷駅までしか購入できないため、戸惑っている間にバスに乗り遅れる事例が発生しています。

自由通路にはタッチパネル式の観光案内（A I さくら）がありますが、必要な情報にたどりつけず、困っている観光客を見かけます。

観光案内所では、対面で人が対応することで観光客の年齢や交通手段を加味して提案できるのが最大の利点ですが、ヒスイ王国館の案内所には「10月1日より日本海口観光案内所で行っていたバス業務はアルプス口観光案内所へ移転いたします。なお、日本海口観光案内所は糸魚川観光協会事務所となります。ご理解・ご協力をよろしくお願いします」の貼り紙があります。

北陸新幹線敦賀延伸、大阪・関西万博をきっかけに、関西方向からの観光客の誘致、インバウンド客に力を入れている糸魚川市の玄関口である糸魚川駅の対応が観光客の満足度に大きく影響するのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) ヒスイ王国館2階にある観光案内所は閉鎖するのですか。誰が、いつ、どのように決定したのですか。
- (2) アバター接客A I さくらの維持費は幾らですか。
- (3) 糸魚川駅からマリンドリーム能生へ行く移動手段をどう解決しますか。
- (4) 土日限定販売の駅弁「キハめし」の需要はどうですか。
- (5) 糸魚川駅自由通路に観光案内所だったボックスが放置されていますが、繁忙期に活用する考えはありませんか。
- (6) 観光協会のホームページに駅周辺の飲食店マップを作成する考えはありませんか。
- (7) 観光案内所に多い問合せをA I さくら、ホームページに反映をさせていますか。
- (8) アプリで自転車の貸出し、返却ができる自転車シェアリングを導入する考えはありませんか。
- (9) 糸魚川駅自由通路のデジタルサイネージに観光スポットの位置関係が分かる地図を表示させる考えはありませんか。
- (10) ヒスイレディはどのような名称になり、何が変更されますか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

田原洋子議員の質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、防災士は73人とお聞きしており、県が6年、7年に認定した防災リーダーは計10人であります。

市で毎年実施している防災リーダー研修には、地区や自主防災組織で活動されている方々50人以上が参加しており、避難所の運営に携わっていただいております。

2 点目につきましては、市の研修において、昨年 1 1 月に避難所運営方法及び関係者の役割を再確認しております。

3 点目と 4 点目につきましては、地域だけでなく市の防災活動に参画いただけるよう、連携について検討してまいります。

5 点目につきましては、糸魚川白嶺高校では防災ジュニアリーダー育成合宿や防災フォーラムなどを通じて防災・減災に対する知見を深める取組を行っておりますが、他市の取組状況を参考に検討してまいります。

6 点目につきましては、天候等諸条件への対策が課題であります。

7 点目につきましては、非常持ち出し品などの備えの一つとして、啓発してまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、7 年度の観光協会理事会で決定したものであり、日本海口観光案内所は 9 月末で閉鎖し、アルプス口観光案内所に統合されることになります。

2 点目につきましては、導入費用が 9 0 万円、月額使用料が 1 8 万円であります。

3 点目につきましては、道の駅は道路利用者の休憩施設であり、特に当市の道の駅は、鉄道利用者の来訪を考慮した立地にはなっておりません。

マリンドリーム能生への糸魚川駅からの誘客については、必要性は感じておりますが、費用対効果、交通事業者の人手不足などが課題と捉えております。

4 点目につきましては、収益性の課題から、本年 5 月に販売を終了しております。

5 点目につきましては、現在、案内所は休止しており、今後の活用方法については、観光協会と検討してまいります。

6 点目から 9 点目につきましては、観光協会とも共有し、費用対効果等を含めて導入を検討してまいります。

1 0 点目につきましては、名称や活動内容ともに、今年度中に検討することとしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○1 0 番（田原洋子君）

まず、順番を入れ替えて、2 の糸魚川市の観光満足度について、再質問いたします。

かなり細かいところもありますが、これは実際に私が、8 月 9 日から 8 月 1 7 日まで 9 日間、朝 9 時半から夕方まで糸魚川駅にいて、聞いたり見たりしたことが基になっている質問です。これは、大切な市民や観光客からのご意見だと思って聞いていただければと思います。

私はですね、生まれ育った糸魚川が大好きで、せっかく糸魚川に来られた方が、糸魚川がいいところだった、また来たいと、糸魚川のファンになっていただきたいと考えています。ここにいる久保田市長をはじめ、職員、議員、傍聴されている皆さんも同じ気持ちだと思います。糸魚川に来られた方の不便とか不満というのを 1 つでも解消していくことが、リピーターになっていただくと考えております。

まず、解決できそうな課題からちょっと再質問いたします。

J R 大糸線増便バスの乗換え時間 8 分の課題についてです。

同じ糸魚川駅から出発する 4 便、6 便は、乗換え時間が二、三十分あるのに、なぜ朝の 2 便だけ 8 分と短いのでしょうか。11 時 55 分という中途半端な時間で、なぜ 12 時ぴったりに設定とかなできなかった理由はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

今回の増便バス自体は、新幹線の大糸線の接続がないところにバスを走らせるということで行っております。当然、糸魚川から白馬へ行くのもそうですけども、白馬からこちらへ帰ってくる時間、それも新幹線に接続をしなければいけないといったことがございます。J R の乗換えの標準時間が 8 分という取決めがあって、J R さんの中では、8 分で乗換えができるというようなことでそういう設定をさせていただいてるんですけども、確かに切符の買替えの部分ですとか、そういったところの煩わしさという部分が、1 年やって見えてきておりますので、この辺りについては、冬ダイヤも含めた中で、何とか改善できないかということは申入れをしておりますし、あと、駅の切符を買う周りですかね。その案内の仕方、これについてももう一度、J R さん等を含めて、現地で確認をしながら表示を変えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10 番（田原洋子君）

新幹線駅ホームに降りて、エレベーターなりで下に降りて、改札を出て、えちごトキめき鉄道の改札行って、切符を買って、順番を待ったりとかしてる間に新幹線のほうで切符を買ってくださいってお願いされたときに、まず、そもそも切符売場が 2 台しかなくて、1 台はオペレーターにつながぐためにずっと順番待ちって状態なんですよ。これが、絶対 8 分では足りないのだなというのを私は実感しています。その点も含めて、ちょっと J R 側にも、この乗換え時間とか、バスなので行ったり来たりの時間もあると思うんですが、改善していただければと思います。

新幹線を降りたらですよ、改札出て正面に矢印が貼ってあるんですが、増便バスはこちらというふうに、やはり目に入らない方が多いみたいです。

ちなみにですね、これ、えちごトキめき鉄道の改札の隣、アルプス口南口からの乗車ですって書いてあります。この案内自体は、どなたが作ったかご存じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

すいません。どこのガラスか写真ではちょっと分からなかったものであれなんですけど、いずれにしても J R さんのほうで貼っているものか、あとはジオパルのほうで、そういうお問合せのお客様

がいらっしゃるということで貼ったものか、いずれかなというふうに思うんですが、ちょっと場所がよく分からないので承知はしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

すいません、写真が小さくて分かりにくいんですが、これ、えちごトキめき鉄道の改札口の枠にある時刻表なんです。その上に、この南口ですって案内貼られたのは、えちごトキめき鉄道の社員の方です。つまりですよ、えちごトキめき鉄道の窓口でそれだけ困られてる方がいるという現状を知っていただきたいと思って写真を撮ってきました。もしですよ、この8分で間に合わないのであれば、その2便の時間だけでも南口はこちらですとか、増便バスはこちらですという案内を持った方がいるのが、私、糸魚川駅のおもてなしじゃないかと思うんです。そういったことも含めて検討していただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

今ほどのようなご意見を踏まえた中で、事業者のほうにはお伝えしてありますし、冬ダイヤの部分も今検討しているところなんですけども、その部分では、時間の部分は調整を加味していきたいというふうに考えております。

ご案内という部分に関しては、あそこで困られてる、券売機の前で困られているお客様については、駅の中のほうから出てきて対応している部分も私見たことがございますし、もっと事業者のほうでも、そういったところの案内をしっかりと伝えるように伝えたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、次の課題に行きたいと思います。

マリンドリーム能生に行く交通手段に関しては、基本的に道の駅は車利用者であって、糸魚川のマリンドリームの場合は、車で行くこと前提なので、駅からのアクセスがということなんですけど、観光課として、この状態を放置しておいてもいい問題なんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

市長答弁のように、道の駅でありますので、ターゲットはやはり自動車を利用される方だと思います。当市だけではなく、地方は二次交通が不便ということで大きな課題ではあるというふうに考

えております。公共交通で難しいところについては、レンタカーまたは、今後はライドシェアやオンデマンド等の仕組みづくりが必要であるというふうに思います。能生町観光物産センターも当然、状況は承知しておりますし、ただ実際には、手は打っていない状況であります。手を打つ、そこまですて糸魚川駅に自分たちから動くという優先度が低いという判断であるかというふうには思っておりますが、いずれにしても実際には不便な状況、糸魚川駅ご利用の方が不便な状況であるということとは認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

糸魚川に来られる方の目的が、おいしい海鮮、やっぱりカニということが一番多くなってます。やはりマリンドリームというのは、もう海というイメージがあるので、皆さんお魚を食べたいとか海鮮丼を食べたいって方は、マリンドリームに行けばいいんだなということが頭にはあるんだけど、距離がそんなに遠かったってことが分からないまま来られている、現地に来てるんですね。観光案内所とかで、じゃあ、もう二次交通ございまして答えている側の気持ちって、どうなのかなって私は思っていて、ぜひマリンドリーム側と糸魚川市観光協会、いろんなところが協力して、本当に、例えばさっき言ったシェア自転車を導入するとか、何か検討していただきたいと思ってるんですよ。今の自転車というのは、有人のところで鍵を借りますとかいってやらないと、鍵借りられないんですよ。だけど能生駅に、例えばアプリで借りられる自転車があれば、スマートフォンでピッとやって、支払いも予約もできますとかいうふうになれば、行ける人が増えるんじゃないかと思うので、ぜひとも社会実験でも何でもいいので、やっていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

能生駅からにつきましては、マリンドリーム自体もこの秋、来月に電動キックボードの実証実験を行うということでお聞きしておりますし、何かしらの手だてがあれば、やはり一番最寄りの鉄道の駅ということになりますので便利かと思います。

ご指摘の自転車のシェアリング、シェアサイクルにつきまして少し調べましたら、国土交通省のデータでは、やはり6割が赤字ということで、なかなか収益性に問題があります。実際にどれぐらい費用がかかるかというものも調べてみたんですけども、ほかの市の例で、1台、自転車も含めて年間48万円ぐらい、アプリ利用も含めてかかるということになります。そうしますと、当市で置き換えた場合に年間、観光協会のレンタサイクルだと870回ぐらい年間利用あるんですけども、1日1,500円でお貸ししたとしても130万ぐらいの売上げになります。それで1台48万円程度かかっているようであれば、やはり採算性はないものというふうに捉えざるを得ませんが、ご指摘の不便な部分については、何らかの手だてを、アイデアを出して解決できるように進めてまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

それでは、糸魚川駅周辺の飲食店が足りないとかいう問題です。

キハめしはですね、収益性の問題で終了しているということなんですが、キハめしを以前に買われた方が検索すると、キハめしの材料高騰のため、販売価格が上がりますってページしか出てきません。終了してるんだったら、好評だったんですけど終了しましたってご案内なり、そもそもキハめしの案内を削除しないと紛らわしいと思うんですね。あれがいつまでもあることで、キハめしっていつ売ってるのって思いませんか。その辺、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

アナウンス、キハめしのアナウンスについては、ご指摘のとおりかと思います。紛らわしいところがありましたら、改めて掲載の方法を考えたいと思います。

人気があったかというところについては、ちょっと微妙な個数かなと思いますし、せめて予約制で販売してみればどうだったかなというふうにはちょっと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

キハめしは、掛け紙がキハってという鉄道ファンの心を揺さぶるところもあったんですが、やはり食事がすごく混んでいるときに、お弁当として買える。あと、やっぱり鉄道ファンの方とかは、駅弁が買いたいという、需要にはすごく応えてたんじゃないかと思います。その販売の仕方とかPRの仕方によっては、今回は収益性が合わなかったってことなんですが、まだまだ伸び代があるのかなと私は考えています。

では、次、AIさくらさんについてお聞きします。

月額で18万であれば、1人雇ったほうが、私はAIよりも生身の人間のほうが役に立つと思うんですけど、その辺はどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

AIさくらについては24時間365日で4か国語対応ということで、ご指摘のように人一人と、実際にその方に合ったオーダーメイドの案内をするかという部分ではすごく機械的なのかというふうに思っておりますが、もともと導入の背景には人手不足がございまして、改札前のボックスを廃止した際に、AIで接客できる本機能を導入したというふうにお聞きしております。DXの流れで、大変、私的には面白い取組であるというふうの評価しておりますし、新潟県の未来図鑑withデ

デジタルというICT推進課さんのページで、観光案内所の救世主だということでご紹介していただいておりますので、実際に対応している人数については、日本海口の観光案内所とほぼ同じ相手をさばいていただいていると思っております。まだまだ伸び代があるなと思いますので、もう少しアップデートできるように取組を進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

私、AIさくらさんに音声で何回か質問してみたことがあります。それっていうのは、糸魚川市の観光協会のホームページ見ても、どこを検索しても出てこない多分情報なんだけど、すごく質問の多い内容です。

ちなみにですね、ヒスイ拾いに押上海岸に行きたいんですけど、どうやったら行けますかという、さくらさんの答えは、1駅です。ぜひ行ってみてくださいねって感じなんです。いやいや、その今電車ないですよって。じゃ、バスで行けますかって聞いたら、糸魚川駅からバスで行くこともできますが、興味深い情報があればもう少し詳しくお聞かせいただけませんか、調べてみますねで終わりました。いやいや、人であれば、このバス路線を見て、例えば鉄道で行けなければ、えちご押上ひすい海岸駅前か、もしくは南押上、押上1丁目で降りても近いよってことが分かります。だけど、AIさくらさん、そこまで学習していないようなんですよ。一番観光協会で聞かれる案内、今はヒスイ拾いです。その次にお昼です。一番得意なのがトイレですよ。ということは、まず、一番聞かれることをAIさくらさんに覚えてもらわなきゃいけないんですよ。この時間で押上海岸ヒスイ駅に行きたいんだけど、どのルートがあって、何時何分発、北口なのか南口なのかとか、観光客、そこまで聞きたいと思ってると思うんですけど、そのぐらいの学習能力はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

観光客からの問合せが多いもの、要はAIさくらの画面上で解決せずに、インターフォンで直接コールすると協会につながるようになってまして、協会の職員が対応するんですけども、そういった部分については反映させているというふうにはお聞きしております。

ただ、今実際、田原議員が体験されたお話ですので、こういった案件があるので、アップデート対応は、観光協会のマーケティング事業部のほうでできるというふうにお聞きしておりますので、対策を講じるようにしたいと思います。

AIということですので、学習機能が当然ございます。そんな中で、質問を、単純にインプットしている情報をお知らせするだけではなくて、質問を学習して、相手に逆に提案するという、例えば今のお話ですと、押上海岸もあります、こちらにもこういうのがありますとかというのを提案できるようになるというふうに、AIですので認識しておりますので、もう少し、まだまだ伸び代があるもんだというふうに期待はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

同じように食事をできる場所がありますかって、今度、音声で聞くと、例えば糸魚川の場合、2時を過ぎると大体ラストオーダー終わっているってことが多いですよね。でも、まずA I さくらさんが紹介するのは、何とか駅の周りではって感じで説明するんだけど、いや、ラストオーダー終わってますよねとか、今日、火曜日で、そこ定休日じゃありませんかみたいなのところも聞きます。やっぱり365日24時間すごく対応していただいて、働き者だというのは私は分かっています。

ただですね、やはり観光客が欲しい情報というのは、今御飯が食べに行ける場所とか、例えば私、歩きなんだけど、そんな遠いところ紹介されたってタクシー捕まらないし、バスもないし、行けないじゃんというんじゃないかなと思うんですよ。なので、ぜひともね、その辺は最新情報を入れるなり、その時間とか曜日だとか、一番聞かなきゃいけないのは、お客様、お車ですか、それとも電車で来られましたかという、最初の質問がないんですよ、さくらさん。これ人間であれば、まず、お車ですかって聞いて、お車だった場合、北口に止めてますか、南口に止めてますかで案内できる場所は若干違ってくると思います。ぜひその辺もお願いします。

次に、一番聞かれる飲食店とかの情報が多いってことは、インターネット上に糸魚川のマップが出てこないのが問題だと思ってます。糸魚川の観光案内所には、このようにすごく分かりやすい北口の飲食店マップがございます。これが、観光協会のホームページにPDFとして表示されれば、歩ける範囲であるんだとか、このお店がいっぱいだった場合、今度ここに行けばいいんだというふうな距離感覚が分かります。

ただ、どうしてもA I さくらさんだと、住所表記だったりとか、QRコードで、さらにお知らせくださいという手間がかかってくるので、まずこのマップを観光協会のホームページなりでアップできることはできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

今お持ちの日本海口まちあるきマップとアルプス口マップという2種類がございまして、私もご指摘のとおり、内容はかなり充実したものがあるなと思っております。見た目は派手ではないんですけども、中身は充足しているかなと。協会のほうに確認しておりますが、技術的には当然可能でありますし、掲載する情報が、観光協会に加盟の有無という部分が少し引っかかっているようなこともお聞きしておりますので、ちょっと調整をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

ぜひですね、私、新潟市古町のほうのマップを調べると、新潟市の観光全体的な距離感覚、新潟県庁がここにあって、大体、古町がこの辺にあるというマップと、古町の何丁目って、古町5、6、

古町7というふうになってるマップで、ランチマップとかいうふうに分かりやすいのがあります。ぜひそれを参考にさせていただいて、ぱっと観光客が見たときに、どちらの方面で、どこには何があるかというのを表示していただければと思います。

続きまして、先ほどヒスイ王国館のほうの観光案内所は、理事会で決めて、閉鎖するということなんですが、実際そこで観光案内されているガイドの方とか、その方たちにちゃんとお話を聞いた上で、納得はされてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

案内所の閉鎖につきましては、本を正しますと新幹線開業でアルプス口に観光協会の本部をつかって、あそこで案内を集約するという時点からあったものというふうに捉えておりますが、実際には2つ併用のまま動いてきて、さらに自由通路にも1つボックスをつくったという経緯がございます。令和6年度に協会の能生、糸魚川、青海の3支部を協会としては統合しまして、今回は糸魚川駅の案内所を統合、充実させるという方向であるというふうに捉えております。組織をスリム化して効率化を図りたいという狙いでありますので、自主自立した観光協会が取り組むための協会の決定は、尊重したいというふうに評価しております。

ご指摘の人員につきましては、実際には人数が減る計算でお聞きしておりますし、そちらについて、職員には当然お話はされているはずです。

ただ、このタイミングで職員の個人のご事情でお辞めになるという方がいるというふうにはお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

働いてる方って、やっぱり現場を一番見られてる方が職を失うとか、例えば私たちもずっとヒスイ王国館、もともとあったのがヒスイ王国館のほうなので、やっぱりその知名度といい、そこで働いてた方とかすれば、プライドもあると思うので、ぜひその方たちの、ベテランの方たちが、プライドを持って働き続けたりとか、観光に携わっていただけるようにしていただければと思います。

一番、私、懸念しているのは、この事務所になったときに、私たち事務所で案内所じゃないので、案内しませんという態度だと一番困るかなと思ってます。今、お昼休みに伺ったら、お昼休みなのでカーテン閉めてるんですよ。何かすごく拒絶されてるような気分になっちゃうんですね。私、労働基準法で言えば、確にお昼休みはお昼休みなので、電話対応とかの待ち時間も勤務時間であるから、それはしっかりしたほうがいいとは思ってますけど、市民の方からは、観光に携わってるのに12時から1時って観光客絶対来ないわけじゃないよねという意見が大半です。ぜひとも、交代で休憩を取るなり、あとうろうろしたりとかきょろきょろしてる方に何かお探しですか、何かお困りですかって声をかけるという体制は取れるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

昼休みの休憩時間について、ちょっと私把握しておりませんで、申し訳ございません。当然、観光案内所として営業時間が決められておりますので、その間は、観光案内所のほうは営業時間ですし、今後、日本海口がなくなった際に、マーケティング事業部の執務室といいますか事務所になります。これまで、もし日本海口の案内所をご利用になった方で、リピートされた方がもう一回寄った場合には、そこをまず訪ねると思うんです、アナウンス等はかなり丁寧になりたいと思いますけれども。その際に、ここはもう案内所じゃないんだよということがないように丁寧なアナウンスは必要だと思っておりますし、また、ご指摘のように案内所のみならず、例えばヒスイ王国館の1階のお土産物売場、あそこは観光物産センターと称されておりますので、当然そういったテナントさんが、率先してお客様に必要な事項をアナウンスできるような体制を取れるように要請はしていきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

ちょっと予算面についてお聞きします。

令和5年度は、観光協会補助金等観光案内所運営費助成金という形で出てます。令和6年は、案内所補助金ではなくて、一本化にされています。これ、一本化にされた理由と、令和5年と令和6年の予算の変化についてを確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

予算のほうは大きく変わってないはずでございます。ちょっとお待ちいただいてよろしいですか。

観光協会には、委託料で出していたときから補助金に変えたというのが、令和4年度から5年度への大きな転換点だったんですけれども、それ以降は、基本的には同じ額を支給しております。プラス市のほうの職員に2人分の人件費を見ておりますので、トータルして、今年度で申し上げますと6,618万円プラス職員人件費2人分という形になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

よく糸魚川市の観光課と観光協会というのは別物だからって、今までずっと言われてたんですけど、今おっしゃったみたいに、今、市の職員も観光協会のほうに行ってるじゃないですか、やっぱり糸魚川市が予算づけして、こういうふうな糸魚川を売っていききたいという事業と、やっぱりその窓口になる観光協会、そしてそれを実行するふうなものというのは両車輪だと思いますので、ぜ

ひとも有効な予算の使い方にしていいただければと思います。

ではですね、観光についてはこの辺にして、1個だけお願いがあります。1個だけというか2個、3個もあるんですけど、まず、糸魚川市内で写真映えスポットというのが、よくないって言われます。どこで写真撮るんだろうって。私が一番観光客で見るのが、顔出し看板、ブラック番長と糸魚川駅にある顔出し看板、それが小さいお子さんが顔出しができないぐらいの位置にあって、親御さんが持ち上げてやっと顔出してるんですよ。まず、踏み台を出していただけないか、お願いできませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

早速検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

もう一つですね、これ佐渡島の最近一番映えるって言われてる栈橋があるスポット、SADOってあります。これ、ちなみに湯沢町は、湯沢駅の新幹線のところにYUZAWAがあって、新潟駅は、新潟駅のロータリーにございます。この糸魚川バージョン、作られる予定はございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

私、4月から観光の課長になりましたけれども、それまでにこういったものがあつたらいいなというものは私も思っておりました。どういったものが、例えばどこでもドアですとか、ハートですとかいろいろありますけれども、糸魚川ならではで、また、ご指摘のとおり、どこに置くのが一番効果的かという部分も含めて検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

瀬戸大橋とかの辺りは、スマートフォンとかカメラを置く台までわざわざ設置されていて、今ほどの佐渡のところも、邪魔になんないように透明アクリル板でスマホスタンドがございます。ぜひとも、そのカメラスタンドとセットで設置をお願いいたします。

では、ちょっと観光いろいろ言いたいことがたくさんあるんですが、直接お伝えすることにして、次、防災のほうに移りたいと思います。

なぜ今回、避難所運営について取り上げたかといいますと、私、7月19日に長岡防災アーカイブセンターきおくみらいで開催された、新潟県防災リーダー養成講座に参加し、避難所の現状と過

去の災害で生じた課題や対応策についてお聞きすることができたからです。

この新潟県防災リーダー養成講座は、この日の開催は、たまたま女性限定会場ということもあり、赤十字活動されている方、女性消防団員と、ふだんから地域活動をされている方だけではなく、今まで地域のために何かしたいと思っていてもできなかった方が多く参加されていました。また、長岡開催ということもありまして、2004年10月に発生した新潟県中越地震、2007年7月に発生した新潟県中越沖地震の際に避難所生活を経験された方、当時子供だったのでほとんど記憶がなく、今回参加したという高校生もいました。

避難生活を経験された方は、避難所はホテルでもないし、お客様でもないと話されていて、防災意識が高い方だけが避難所がどのような場所で、どのようにして安心して過ごせるのか分かてればいい問題ではないと強く感じました。

では、せっかく災害発生時に携わった命でも、災害関連死の原因は、具体的にどのようなものがあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

災害関連死の原因ということでお答えいたしますと、先ほど議員のご質問の中にもありましたように、肉体的負担が原因で亡くなると、精神的・肉体的負担が原因で亡くなるといったことになりましたが、その原因としては、例えば避難所生活におけるトイレの利用であったり、トイレが過去の大きな災害におきましては使えなくなるといった事情もありまして、トイレを我慢することで体調崩されるという方がおられたり、また、そこにやっぱり当初、食事というところもかなり、同じ食事が繰り返し出されるといったところも避難所運営の中では指摘されておりますので、そういったところであるとか、また、避難所の居住スペースと言われるところが、本当に体育館の中で、みんな雑魚寝をするような形であったりということで、それで体調を崩されたりといったところが原因になろうかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

今トイレが使えなくなる問題が出てきたんですが、まさに人がいっぱいいる体育館の中でトイレの距離があるので、特に高齢者、人のかき分けたりとか、ちょっとすいませんと言ってトイレに行くのに気を遣うとか。あと、やっぱりトイレが汚れてたりとか臭いの問題で、トイレにあまり行きたくないと言って、食べたり飲んだりを我慢して、脱水状態を起さる方がいらっしゃるとお聞きしています。私、避難所マニュアルとか避難所運営について調べると、高齢者の方とかトイレに近い方は、できるだけトイレの近い場所とかいうような配慮が必要とは書いてあるんですが、このことを市民一人一人が知らないとか、じゃ、年配の方はこちらのほうにどうぞとか言わないと思うんですね。基本的に避難所に私たち行ったら、端っこに端っこに、角に角にって私たち絶対行きたがると思う

んですね。でもそこも配慮が必要なんだよという、まず勉強が必要だと思うんですが、どのようにそれを周知していきますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

私、この部署に4月に参りましたけれども、その後、地域へ出前講座等で出かけた際に、一緒に市民の方々と避難所ゲームなるものをやらせていただきました。その際に、やはりどういうところ、受付を避難所に来られた方々が受付をして、そういう方々がどこに配置といいますか、避難所にスペースを取っていただくのいいかというところも併せてやるゲームになっておりました。例えばそういうことを今後、出前講座等でやっていけばいいのかなというふうには思っております。

また、避難所設営についての研修等もこれまでも行っておりますけれども、まず、市民の皆様とそういった避難所運営、避難所についての情報の共有などを図りながら、皆さんが健康的に過ごしていただける避難所運営、できるように努めていきたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

あとは避難所のスペース問題です。

以前の避難所というのは、避難所に行かないと食料がもらえない。避難所にいる方に対して食料だとか救援物資を分けるという感覚だったんですが、今は在宅避難、例えば垂直避難も含めて、避難所には行かないという避難の仕方というのも浸透してきてます。

糸魚川市の考え方として、避難所にいる人だけに食料を分ける、物資を与えるという考えではないということだけ、まず確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

避難所に食料を取りに来られた方がいた場合ということであれば、お渡しする形になろうかと思えます。

ただ、私どもで市民の皆様をお願いをしていきたいのは、これから災害に際して3日分の備蓄をお願いしたいとか、それぞれのご家庭でも個人としての食料の備蓄であったり、携帯用トイレの備蓄であったりをお願いしたいといったところをまずはお願いしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

この問題、防災リーダー養成講座の最初の頃にあった質問なんです。皆さん避難所にいるんだけど、避難所以外の自宅避難されてる方が避難所に来たときに食料を分け与えますかって言ったら、半々ぐらいで意見が分かれたりするんですね。いや、困ってる人に分け与えるのが当たり前ってことと、逆に、避難所でも数が足りないんだから、把握できてない人数まで与えたら足りなくなるんじゃないかって、どっちも正しい意見だとは思ったんですが、やはり困ったときはお互いさまってまず精神が必要だと思ってます。

次にですね、この子供を含めての防災教育についてお聞きします。

根知小学校、木浦小学校防災キャンプというのを地域の方と行ってたんですが、木浦小学校は、能生小学校に今、行かれてますし、根知小学校も、来年度から大野に通うことになっています。根知の方から、そういった大野小学校に行っても、防災キャンプだとかいいような取組は続けてほしいといったご意見いただいたんですが、まず、防災キャンプの今取り組んでいる学校、また、これからの取組についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

申し訳ございませんが、防災キャンプという取組につきまして、各小学校で実施している分については、私のほうで今情報を持っておりませんのでお答えできません。以前に、防災チャレンジ教育プランといった形で、根知小学校で取り組んでいて、その際に地域の方々と一緒に避難行動を行ったりする中で、子供たちが災害について考えるといった取組をしていたといったところはあったというふうには記憶しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

どうしてもこの前の8月30日に実施された防災訓練は、やはり土曜日開催、昼間開催で、毎回皆さんおっしゃるのが、災害、土日の朝8時に発生するわけじゃないよねというのが大きな課題です。私たち一番近い小学校とか公民館なりに行くんですけど、そこには、ふだんだったら子供たちがいるはずなんです。

教育長にお聞きします。

例えば学習発表会とかスポーツフェスティバルのように、土日に子供たちもいて、そこには必ず大体自治会長さんとか公民館長さんとか、地域の役員の方も多く来られてると思うんですよ。そのときに合わせて、午前中は学校行事なんだけど、午後から、例えばそういう避難訓練を行ってみるとか、体育館で子供も地域の方もいたときに、どのように配置したらいいんだろうってみんなで考えましょうということは取り組みできないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 蘆本教育長。 〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 お答えいたします。

 1つのこれからの防災教育の在り方の提言だというふうに、私は受け止めさせてもらいました。今までは学校単位での防災キャンプというのが、小学校も中学校もちょっとずつ広がってきています。地域を巻き込んだというような部分のところが、次のステップに私は続くんじゃないかなと思います。これは、学校の1つの行事、それから地域の行事とドッキングしてという形で、地域ぐるみでの防災教育、訓練というような形になりますので、ここら辺りは学校側と地域との、いろいろミーティングを重ねていく中で、それは実現可能な取組だと私は思っています。

 以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

 先ほどの中村次長のお話にあった避難所ゲームという形であれば、子供たちは楽しみながら学べる機会も増えていくと思います。

 やはり誰かが何かをやってくれるんじゃないくて自ら考えるだとか、例えば一度にわあっと避難所に入ってしまったんだけど、では通路を作りますといったときに、防災養成リーダー講座では、1回皆さん、床を掃除するために荷物をまとめてくださって動かすそうなんです。1回皆さんわあっと入ってしまうので、いや、皆さんわあって避難所に駆けつけてるのに、まだ入らないでください、通路を作りますというのはちょっと言いにくいので、一旦雨とか降ってると入っていただくんだけど、その後、掃除をするとか換気をするという名目で、通路を作ったりとか場所の移動をお願いするそうなんです。ぜひともそういった経験とかを積んでいただきたいと思います。

 この災害ボトルについて、防災グッズを詰めたボトルについて紹介したいと思います。

 これ、2024年の消防団フェスタで、私手に入れたものです。今のトレンドとして、防災リュックを持ち歩くというのは大変なんだけど、このボトル型のものにマスクだとかウェットティッシュ、それから乾電池、懐中電灯、アルミシート、防寒具、防寒になるものが入ってます。この中身を詰めるのは皆さん自由、あめを入れたりとか、そういうものを入れる方もいると思うんですが、このボトルのいいところは、例えば雨が降ってても、中に入れてる紙とかがぬれないとか、この容器自体が水をくむとか、自分のところに飲料水を置くというグッズになるというものです。

 これはですね、そのときアナウンサーで防災士の吉田理彩さんが、私はこういうものを通勤かばんの中に入れて持ち歩いていますというふうにご紹介されてたんですよ。なので、私はとても便利だなと思いました。

 このようなことをですね、このグッズを売るのが仕事じゃなくて、こういう方法もあるんだってこと、それから、この前の8月30日の避難訓練で高齢者の方は、つえもついでるし、もうリュックなんて重たくて持てないから、斜めがけかばんに最低限のを持ってこられるんですね。そのとき

にこういうやり方あるよということを知らなきゃいけないのかなと思っています。

そういった、せっかく皆さんが集まったときに、誰々さんはどんなものを持ってきましたかとか、逆に若い人はいっぱいこうね、ソーラーパネルの私は乾電池とか持ってきましたけど、持ってきましたというのは具体的にさせていただきたいんですけど、そういったような呼びかけとか提案とかはされてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

議員ご指摘のように、具体的にその防災グッズを詰めたボトルについてを、例えば皆さんで確認しましょうとかというところではないですけれども、例えば今回の避難訓練の際にも、各地区において自主的に避難をした後、非常持ち出し袋の確認であったりというののもちょっと重点項目といえますか、確認項目には入れさせていただいておりました。

ご指摘の部分は、非常持ち出しと別に、常日頃から持ち歩ける携帯できるものという意味かと思っていますので、また機会を捉えて、PRはしていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

8月30日の防災訓練当日、朝から猛暑で、私たち西海小学校に集まりましたけど、暑過ぎて、おられんわって。もしここ避難所になったら、ここで生活するのはあり得ないというか、もう無理だろうって話がよく出ました。高齢者の方は、体育館に来ることを考えれば、家にいたほうがいいんじゃないかって。

ちなみに、このスポットクーラー、中学校には配備されましたが、指定避難所、小学校とか、あと県立高校もあると思うんですが、今後の整備予定とかはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

避難所ということで防災担当のほうでお答えをさせていただきますが、今回スポットクーラーにつきましては、各中学校に2台、国の補助もあって入れさせていただいております。市長答弁にもありましたように、今回の防災訓練において、暑さ、寒さといった気象条件への対策が課題であるといったこともあります。今回導入した移動式エアコンの様子も聞きながら、財政的な課題もございますけれども、検討はしていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

避難所運営に職員がそれぞれ配置されると思うんですが、糸魚川市の場合、指定避難所には大体何人ぐらいの職員を配置する予定になってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

市の職員は、3名ということで申合せをしとったんですが、令和2年ですか、コロナ禍の場合にどうしても人数が要ということで6人ということなんですが、今コロナ禍も収まっておりますので、その辺は、また庁内のほうで何人配置するか、どういうふうに配置するかといったところは検討するところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、指定避難所において、行政職員の重要な役目は何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、市の職員につきましては、すぐには避難所には行けないといったところで、地区の皆さんから運営していただくんですが、市の職員が避難所へ行った際には、そういった地区で運営していただける方を指示という言い方はちょっと語弊があるかもしれませんが、役割分担を明確にさせていただく。また、ある程度の時期になったら、今度は市の職員はほかのほうにシフトするといったようなところで段階を追って、市の職員には役割はあるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

過去の災害では、苦情や要望への対応に追われて、本来の必要な支援の情報を災害本部に伝え、支援が届けるようにすることに集中できなかったという反省があったそうです。

私も防災リーダーのこの認定書を頂きました。ぜひともですね、防災リーダー、防災士、それから市の職員、市民、皆さんが一丸となって避難所運営ができるようにしていきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田原洋子議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を２時半、２時３０分といたします。

〈午後２時１６分 休憩〉

〈午後２時３０分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。〔１５番 田原 実君登壇〕

○１５番（田原 実君）

創生クラブ所属、田原 実です。

６月議会で、私は明日の地域医療の確保を訴えました。今回は、看護師確保とまちの再生のほか、市長の施政方針と行政改革、市民理解について質問します。

これは、市民からのご意見で気づいたことですが、市長の掲げる縮充のまちづくりや市民の声を聞いて進める参加のまちづくりが、人口減少社会での住民福祉の増進や市民サービスの充実となることを市民の皆様からご理解いただく必要があるということからでございます。市長選挙のことを持ち出してすいませんが、市民の皆様それぞれに、応援した候補者の訴え、マニフェストは理解したが、そうでない場合には、これからのご理解になるということと捉えております。

では、通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

質問１、久保田市長の施政方針と行政改革及び市民理解について。

- (1) 人口減少社会のまちづくり、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」に期待する市民のために、その理解と展開を、概念にとどまらず具体策としてどのように打ち出し、進めていきますか、伺います。
- (2) 「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」で市役所職員の意識と行動はどう変わっていくべきか、もしくはどう変わってほしいと市長は考えますか伺います。また、関連する団体、組織への対応は、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」でどう変わっていくと市長はお考えですか伺います。
- (3) 「縮充のまちづくり」と「参加のまちづくり」を議会とはどのように進めていきますか、伺います。
- (4) 理事者の役割分担、組織改革、目標値の設定などについては、どうお考えですか伺います。

質問２、糸魚川の地域医療の現状と課題、市民の理解と行政対応について。

- (1) 看護師確保策について伺います。
- (2) 病院運営の財源確保について伺います。

(3) 不足する医療への市民の声、説明会等で聞かれた声及び行政の対応について伺います。

(4) 通院における病院利用者、高齢者への公共交通配慮について伺います。

質問 3、北陸新幹線開業がもたらしたものは何か。

糸魚川駅及びえちご押上ひすい海岸駅周辺の整備と活用並びに駅北大火後の町なかの再生とにぎわいづくりについて。

(1) 糸魚川市立地適正化計画と「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」は合致していますか、伺います。

(2) まちなかの再生とにぎわいづくりについて、担当する部署はどこ（誰）ですか、伺います。

(3) 北陸新幹線開業がもたらしたものは何か。10年間の新幹線効果の検証と、市民、特に若者に期待されるこれからのまちづくりについて伺います。

(4) えちご押上ひすい海岸駅周辺整備における地元地区要望への対応、石のまちやジオパークの推進における押上ひすい海岸来訪者への対応、通勤・通学への対応、バス交通との連携、地元住民や高校生のまちづくりへの参加について伺います。

(5) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設の計画見直しにおける用地の活用策とビル解体工事について、限られた時間の中での取組について伺います。

(6) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設用地は、市長が言うとおりの汎用的な活用としていただきたく、以下提案しますので、市長のお考えを伺います。

① 私がいう(仮称) 駅北プレイパークのアイデア募集を行っていただきたいと思います。
これについては「一般財団法人公園財団WEB公園・夢プラン大賞募集」をご参照願います。市長のお考えを伺います。

② 旧市役所跡地の海望公園、旧消防署跡地の駐車場などを含む一団の土地活用として、駅北大火後に絵にしてもらった子供たちのアイデアをもう一度検証したり、市民からのアイデアである新幹線駅からも見えるランドマークとしての展望タワー、日本海に張り出す展望台、海水を引き込んだ水遊び場の設置を考慮していただきたく要望いたします。市長のお考えを伺います。

③ 生活に欠かせないコンビニの誘致など、近隣住民の要望、遠方からの来訪者が期待される特徴ある図書館・資料館、温浴施設の設置など、糸魚川出身者からいただく意見への対応をお願いします。市長のお考えを伺います。

(7) 駅から海へ向かう「通り」の活用、通りを使って都市の中に「軸」をつくることについて私から提案します。具体的には、建築や設計業務に携わる市内の若者たちから意見を聞いて実現する、あるいは建築や都市を空間から考える専門家からアイデアを出していただき実現する、密室でなくオープンな、市民誰もが参加できる協議の場を設けていただきたいと思いますと考えますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、3 地域の区長並びに自治会代表者の方と懇談し、私の考える基本理念や公約について説明させていただきました。

今後は、小学校区を単位として、13 地区で懇談会を開催する中で、私の考えを説明し、市民の皆様からご意見をいただくこととしております。

2 点目につきましては、これまでに職員との懇談会を 5 回開催しております。

職員に対しましては、前例にとらわれることなく、新たな視点でチャレンジすることを求めています。

また、関係団体の皆様とは、10 年先のありたい姿を共有し、限られた資源を有効に活用するため、選択と集中を意識しながら共に考え、共に行動してまいりたいと考えております。

3 点目につきましては、議員の皆様とも対話することが重要であり、お互いの考え方を受け止め、よりよい方向に向かって取組を進める必要があると考えております。

4 点目につきましては、行政組織の再編に向けて検討を行っているところであり、様々な課題に対応できる体制を目指してまいります。

また、私自身、先頭に立ち、市政運営を行うとともに、次期総合計画の策定に当たり、新たな目標を定め、課題の解決に向けて取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、医療職への関心を高める小中学生出前講座、看護学生への修学支援、地元就職へつなげる医療系大学等への訪問などに取り組んでおります。

2 点目につきましては、物価・人件費高騰に見合った診療報酬の引上げに加え、国・県からの財政支援が必要であると考えております。

3 点目につきましては、救急医療体制や診療機能の維持、地域医療構想の早期実現など、いただいたご意見を受け止め、持続可能で、安全・安心な医療体制の構築に向け、着実に進めてまいります。

4 点目につきましては、先日の地域医療に関する市民説明会でもご意見をいただいております、市民が安心して通院できる環境づくりについて、対応を検討してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、急激に進む人口減少や超高齢社会において、目指す方向は同じであると考えております。

2 点目につきましては、産業部を中心に、庁内全体で取り組む課題であると考えております。

3 点目につきましては、産業面や観光誘客の面で効果があったものと捉えており、今後も若者が「住み続けられる」、持続可能なまちづくりを展開してまいります。

4 点目につきましては、地元の皆様のご要望やご意見を踏まえ、地元の高校生などからの参画を呼びかけながら、駅周辺整備など押上地区のまちづくりに、地域の皆様と一緒に取り組んでまいります。

5 点目につきましては、11 年 4 月までに整備を完了したいことから、8 年度から 10 年度の間に設計業務委託と工事を実施する予定であります。

6 点目につきましては、多くの人が日常的に関わり、使えるように取捨選択しながら、汎用性のある広場の在り方を模索したいと考えております。

7 点目につきましては、議員のご提案について、建築士会糸魚川支部の皆様にもお伝えし、検討

してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

質問1、久保田市長の市政と行政改革について、2回目の質問です。

縮充のまちづくり、参加のまちづくりを掲げ、当選された久保田市長。6月議会で市長からは、財政改革は可視化、見える化して、市民に理解と協力を求めていく。行政の問題解決には縦割りではなく、ワンストップでの対応をしてみたいとお答えいただきました。これが、久保田市長になったら役所が変わったねと市民に言っていたような動きとなればよいのですが、その辺り、4月24日からこれまで約4か月半を経過して、市民の反応など、市長に実感はありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

市民との対話等に関するイベントや集会等に直接出向き、まずは気安く意見交換ができる素地づくりを務めてまいりました。それらを今後、生かしたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

チーム久保田のプレーヤーは、市役所職員全員です。教育現場でチームを育ててきた市長が、行政組織でその手腕を発揮することが市民の期待です。

ただ、スポーツと違い、役所の動きは、結果は分かりづらいものがあると思います。そのため、これまでにない手法・手段を市長は考えておられますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、庁内においては、不定期であったとしても、それぞれの部署に直接出向いて、業務の進捗を確認させていただきたいと思っております。

また、市民活動、それぞれの現場においても、出向きながら、その評価をお聞きしながら、一致度を確認していきたいと。また、それをフィードバックして、市民の直接市民サービスへの取組に

ついて、職員と共有させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

理解いたしました。新しい糸魚川市政を担う副市長と教育長、お二人への市民の期待も大きいと思います。縮充のまちづくり、参加のまちづくりで、職員の意識と行動はどう変わるべきか。関連団体への対応は、理事者の役割分担、組織改革、目標値設定についてはいかがですか、副市長と教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、何点か言われたんで、全てちょっと答えれるか自信がないんですが、まず、理事者の役割分担というふうにおっしゃられました。市長には、市内外のバランスを取って公務に当たってほしいということで、市外ばかりでなくて、市内のほうに目を向けて対応していただくようにというふうにお願いをして、市外には私が出向くような形で対応を今取っております。

それから、市長が就任されて、部・課長会議というのが毎月あるんですけども、その中で市長と私のほうから、考え方や思いを職員に伝える場面がございます。そういった伝えたものについては、全職員がグループウェアで共有することになるんですけども、その中で私、申し上げているのが、例えば組織であれば市長をトップとして、組織というのは便宜的に分けているだけであって、市長の思いを酌み取った仕事をするべきである。そうすると縦割りでなくて、その隙間にある仕事を職員がしっかり拾って対応するとか、1つの課で収まらない課題についても、そういう対応をしてほしいと、そういった意識を持って仕事をしてほしいということを申し上げます。

また、職員の中には地域活動、例えば小学生の指導だとか、ボランティア活動だとか自治会、PTAなど活動してる職員も結構いるんですけども、そういった場に出向く、市の説明会とか懇談会だけでなく、そういった場面に出向くことで地域の皆さんから意見を聞いて、それを政策や事業に反映することに取り組んでくださいということを申し上げます。

それからもう一点、縮充の関係からいきますと、やはり公共施設、1市2町が合併して今20年たつんですけども、公共施設の管理の関係で申し上げますと、全国平均で市民1人当たりの床面積にならずと全国平均の2倍という形になっています。こういったことから、老朽化している施設あるいは役割を終えた施設については、整理・統合をしていく必要があるというふうに思っていますし、権現荘などの例のように、民間でできるものは民間に譲渡すると、そういった形で進めていきたいというふうに思います。

それだけ言うと、ただ縮まるばかりですので、そういったことで、新しい財源を生んで、新たな事業等に取り組んでいくと、そういった姿勢で職員に取り組んでほしいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

何点が聞かれていますけれども、ちょっとまとめてというような形になるかもしれませんが、お聞き取りいただきたいと思います。

久保田市長が掲げている重点施策の2つ目が、教育の推進ということで大きな柱を掲げておられます。私の役割としましては、教育行政を担う責任者ですので、糸魚川市の教育の充実のためにどんなことが課題で、その課題解決のためにどのような方向が求められるのか、それを課長・補佐会議等々を通しまして、熟議しながら1つずつ進めていく、事務の執行を確実に進めていく、それが大きな要素だと私は思っています。

その中でもって、糸魚川市で掲げている教育の大綱、大きな目標がありますけれども、我が糸魚川で人づくり、その具現をみんなの力を合わせて進めていくんだということの根本的な部分については、適宜、確認させていただいておりますし、0歳から18歳までの子ども一貫教育のさらなる充実という問題意識も常に持ち続けながら、今現在仕事を進めています。取り組みましてから15年というふうな月日を積み重ねてきましたけれども、その成果と課題を踏まえながら、さらに充実という形でもって、糸魚川の教育のこれからの学校の在り方というふうな部分の環境整備について、大きなかじを取らなければいけない、この時期に來ています。そんな意味合いで、緊張感を持って、しかもこれからの教育の在り方ですので、子供たちの夢や希望を育むために、どういう体制が必要なのかということを考えながら、今、計画のほう、方針を含めて、適宜進めている最中でございます。

新たな学校の教育環境整備っていいますというと、やはり地域づくり、地域コミュニティづくりというふうな部分の要素が大変大きな割合を占めてきます。だとすると、教育委員会の内部だけの検討課題ではなくって、これは庁内にある関係部署、関係諸機関というふうな部分の方々との英知をディスカッションしながら進めていく必要があるというふうに思ってます。当然、地域の方々、保護者の方々、議員の皆様方、それぞれに適宜適切に情報提供しながらミーティングを重ねていく中で、これからの糸魚川市の教育の体制づくりについての方向が出るというふうに思っています。

気持ちを一つにしながら、市長、副市長とのミーティングも重ねながら、これから大きな方向転換になっていく大事な時期ですので、1つずつ丁寧に進めていきたいというふうに思っております。全力で課題解決に向かって取り組んでいきたいというような覚悟です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

トップが替わって、副市長、教育長のサポートがあって、糸魚川は随分変わったねと言われるの

は1年先でいいと思うんですね。しっかり取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ここで、久保田市政の市民理解のための提案をさせていただきたいと思います。

動画の配信はいかがでしょうか。

私は、これまでの市長の市民との対話集会を見て、聞いて、なるほど元高校の校長先生だと思いました。釈迦に説法ですが、自分の考えを多くの方に分かりやすく伝えることは、リーダーの役割です。

私は7月に島根県浜田市に政務調査に行かせていただきましたが、市長の久保田章市様は、浜田市のご出身で、法政大学教授をお務めの後、市長になられた方です。市民への情報出しに、市役所ホームページから「扉を開けて…市長室からのメッセージ」という15分の動画を毎月配信し、この7月で120回目、市長自ら新型コロナ関連情報と浜田市の水産業の現状と企業誘致を詳しく説明して、市民に伝わる動画です。

市長には、事前にお伝えしてあります。糸魚川でも取り組んではいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も海洋高校時代に、能生ケーブルテレビがよく取材に来ておりまして、町の皆さんには、また、おまん映とったよとか、こんなことやとったねというふうにして言う声をかけられて、いただきました。そういう部分においては、情報発信というのは動画等も含めて大事なことで思っております。

ただ、単なるパフォーマンスで終わることのないように、これから1年、やっぱり市民の皆様の場所に出向いていって、いろんな声を聞きながら、どんな情報発信をすればいいのかという部分を考えながら、これから先、どういう形で情報発信すればいいのか、また皆さんの知恵を拝借しながら、また庁内で議論を深めて対応してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

縮充のまちづくり、参加のまちづくりを市長、職員、市民と一緒に進めてまいりたいと思います。

本日の質問の新潟県が進める地域医療構想や、糸魚川総合病院のダウンサイジング、そして、糸魚川市の立地適正化計画と駅北まちづくりの戦略、まさに縮充の取組、参加のまちづくりです。市長は、これまでの行政を継承しながらも、新しい視点、切り口を持って進めていると私は思います。

そのようなことを踏まえて、質問の2への再質問へのご答弁をお願いいたします。

市内3会場での地域医療説明会、担当課の準備と対応はよかったと思います。私は評価いたします。

さて、参加された市民は、どう捉えたとお考えですか。

新聞報道では、早期実現を求める声と不安の声が聞かれたとありました。各会場の主な質疑と参加者数を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

各会場の人数から申し上げます。

糸魚川会場が34名、午後からの青海会場が28名、31日の午前中の能生の会場が28名という参加者でございました。

主なご意見ですが、参加者の皆様からは、医師、看護師をはじめとする医療技術者の確保でありますとか、高齢者の医療機関への交通手段の確保、それから富山大学との関係性の継続、そういったご意見がありました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

地域医療構想の説明は、よかった。しかし、糸魚川総合病院での救急医療対応が確保され、必要な診療科が維持されるかを市民は理解し、納得できたでしょうか。ここが重要なポイントでしたが、市の答弁では話がすり替わっていたように感じましたが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

話をすり替えたというつもりはございませんで、私の説明の中で、これまで、昨日も答弁させていただきましたが、地域医療構想がなかなか進まない現状の中で、糸魚川総合病院の将来の在り方、姿が、まだ明確に見えてこないものですから、そこで明快な答えにならなかったというふうに思っております。これから先、どんどん議論がされていけば、もう少し具体的にお話しできるようになるとは思いますが、救急医療体制については、何としても維持しなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

延びたという話で、分からないってことなんですね。

新潟県の地域医療構想が進まないの、糸魚川の救急医療が対応できないということなんでしょう。本末転倒というか、矛盾しているというか、あるいは糸魚川の救急は諦めなさいということでしょうか。

地域医療構想は県が進めるものだからというならば、県は何をしているのかということになりますよね。県知事も地元県議も、糸魚川地域医療体制の危機をご存じのはずです。県知事、地元県議が来て、ちゃんと説明していただかないと、市民は納得できません。市からちゃんと伝えて、何とかしてください、お願いします。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

先ほども申し上げましたが、救急医療体制は何としても維持しなくてはならないというふうに考えております。それで、先日、昨日の市長の答弁からもございましたが、知事の要望をしてまいりました。その中で、知事のほうからは、県民が住み慣れた地域で、必要な医療を受けられる体制というものをおっしゃってまいりました。それを実現していただくためには、まずは県立病院の財政改革、経営改革をしていただいて、巨額な一般会計からの繰出金を減らして、我々の地域に回ってくるような医療政策への財源確保に努めていただきたいなというふうに考えておりますし、これからも、そういったことを県と話してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

それは、県の事情の説明じゃないですか。それ、代弁してるだけです、ね。市民は、救急医療どうなるんですか、それはいつなんですかということを聞いているわけですよ。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

多くの議員の方から、糸魚川の救急体制についてご質問がございました。私自身としては、主語を糸魚川市というふうにして、直接、知事にお伝えしました。また、国・県への要望についても、全て主語は糸魚川ということで、6市でつくる地域医療の協議会においては、今、課長答弁があったように、全体の財源措置について要望しているんですけども、私自身は、主語を全部糸魚川に変えて、糸魚川はこうである、今後、必要な救急体制医療についてはこうありたいという部分で、一応要望はしてきておりますので、それについては、今度はどのタイミングで、県もしくは知事のほうから、そういう直接のお話を伺えるのかについては、今後また、お話を進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

看護師確保策について伺います。

以下、医療関係者から聞いたお話をご紹介します。

看護師は、若い、ベテラン問わず、退職が多い。そもそも看護師になろうとする人がいない。カスタマーハラスメントを苦痛と思う看護師もいる。職場のルールがあるが、患者家族は、それを知らないし、従わない。看護師は、看護の倫理の下、使命感を持って仕事をしているが、ならば患者家族の倫理はどうなっているのかと思う。職場のルール、看護の倫理がなし崩しになっていく中で、看護の仕事ができると思うか。看護師は、患者家族とのコミュニケーションを心がけているが、それでご満足いただけないということか。待たされるとか、玄関で職員に大声を出す例もあるが、一体何がしたいのか。糸魚川総合病院がどうかとは違うのではないか。糸魚川の医療を存続させるには、みんなが我慢が必要なはずだが、それが理解されていないなど、糸魚川総合病院での苦情への対応、その解決に向けて、行政がやるべきことがあるのではないかと問われています。ぎりぎりのところで頑張る病院従事者のために、解決すべき大きな問題・課題があるのではないですか。

市長は、どうお感じになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

ただいまの田原議員のご質問については、非常に私自身も悩ましい問題だと思っております。実際、8回程度、8回ですかね、順天堂病院のほうに行ってまいりました。そのほかの病院も、私自身、自分で受診をするとかという経験の中でありますけれども、まず、看護師さんがいて、それで今度、看護助手さんがいて、また、その看護助手さんをまたフォローする今度は、受診科のところで専属的に、いわゆる案内をしてくれるとか、これから何分後に対応しますよという部分をやっていく分担がされていて、非常に患者にとっては楽な、ストレスがたまらない方式があるんだというふうに感じています。

ただ、糸魚川総合病院にあつては、1人の看護師さんが全て賄っているという状況、それをやっぱ市民の皆さんにこういう状況ですと。それをまた、サービスをよくするためには、いろんな意味で人件費もかかるし、皆さんの負担が多くなります。そういう中で共存することは、どういう形になるのかという部分の市民意識の醸成をこれから図っていかなくやいけないと思います。そういう部分で病院当局と、また本庁の担当課と、そしていろんな医療スタッフの皆さんと、そういう部分を話をしながら、できる限り市民の気持ちに寄り添うような場面づくりにしていければというふうに思います。そういう取組も幾つか今している最中だと思いますので、ちょっと私、度忘れしたんですけど、そういう部分は、行政サイドと病院当局との懇談の場、スタッフが研修する場をつ

くっていると思いますので、それらをまた、さらに拡大していけばと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

糸魚川総合病院と糸魚川市の関係は良好と聞いています。なので、糸魚川総合病院と市民との関係も良好となるよう、行政から働いていただきたいと思います。何かよい案はありませんか。それがよい事例となれば、看護師確保につながっていくと思うのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私どもにどれだけのことができるかちょっと分かりませんが、市民の方からいただくご意見を糸魚川総合病院にお伝えしています。糸魚川総合病院の皆さんが頑張っている様子を市民の皆さんにお伝えしていくということを、何らかの形でやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

I T O－L I F Eという事業で、病院と連携しているようですが、成果はありますか。看護師の仕事だけして、糸魚川にいるわけではないし、暮らしの充実が定着につながり、人を呼び込むことになるので、そこに期待しています。それがよい事例となれば、看護師確保につながっていくのではないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

I T O－L I F E事業につきましては、企画定住課が取り組んでおります。

内容につきましては、若者の交流という観点から、縁結び応援企業として、異業種交流の試行的な事業として取り組んでおるものでございます。今回、お互いの職場についてなど、それぞれの立場で意見交換し、新たな交流を創出することを期待したものでございます。そのような観点では、一定の成果があったものと捉えております。

また、糸魚川総合病院におきましては、SNSで発信していただきまして、病院職員が様々な活

動に取り組んでいることなど、糸魚川総合病院の特色をPRできたものでないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

病院運営の財源確保について、医療の説明会での話と参加者からの質疑は、どのようなものでしたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

参加者の方からのご意見とすれば、糸魚川市が糸魚川総合病院に支出しております各種補助金の合計が、年間2億5,000万とかという金額で、この令和7年度につきましては、3億円を超えている状況でございます。その中で、国等からの財政支援の状況を問われました。そこで、およそ特別交付税では、そのうちの2億円がその対象経費になっているということをお答えしたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

糸魚川総合病院は、経営危機を訴え、議会にも詳細資料を出してきています。糸魚川医療、県立病院は、県からの大きな支出で経営継続します。

一方、糸魚川総合病院は、単体では採算が取れない。厚生連全体も経営が危うい。それで、市民の命を守るには、資金を準備して、持続していく以外ありません。仮に糸魚川総合病院の赤字を糸魚川市が支えられないということになったとして、赤字をなくすためには、診療科を削るということになります。上越の病院へ行くからいいという市民もいますが、50キロ離れています。市民にとっては、糸魚川総合病院があることが、今は当たり前ですが、その存在はなくなったときに理解されます。地域医療の説明会でも出されるべき話であったと思いますが、なぜそこに踏み込まないのですか。

確かに市からの支出は、議会の承認が必要です。市民への説明会で、おいそれと出せる話はないかもしれません。しかし、この病院存続の危機感を市民にもっと伝えるべきでした。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先般、県への要望に行った際に、その後、約1時間程度、当該市町村と病院関連の方、当該部長ですね、それとJAの皆さん、会長、そして理事長さん、交えて勉強会をさせていただきました。その際に配られた勉強の資料について、今まさに田原議員が言うように、この資料を基に市民に説明すれば、基本的に市民のほうは、そうなのかというふうに納得できる部分があります。3点ありました。

まず、厚生連の下で、持続可能な形態に縮小する。診療科を縮小していく、そのメリット・デメリット、このデメリットについて、市民が非常に疑問に思っている部分がある。それと、民間病院にそのまま譲渡していくという方策、これについてもデメリットとしてこうです。

特にスタッフ確保ができるのか。地元雇用の創出が、可能性が非常に薄れてくるんじゃないか。それと、残存簿価、いわゆる借金ですね、そういうもの、機材が老朽化する中でおいて、それがどうするのかという部分、手を挙げる民間業者が、果たして糸魚川にいるの、糸魚川へ来る民間業者がいるのかという部分、それと、公立化、公設民営化について、そこも含めて、我々、勉強会をさせていただきましたけど、それぞれのデメリットを、私はこれを見るにつけ、これは糸魚川では相当厳しい方策、どの方策を取っても厳しいものになるんだと、私自身、実感しましたので、それを市民に向けてどういう形でデメリットと課題について理解していただくかという機会は、別途設けなきゃいけないなと思っています。今3回やった中において、出てきた課題、それと、これから提示するもの、それをまた整理しながら、市民との対話に努めてまいりたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。機会を持ってですね、よろしくお願いいたします。

18年前の旧姫川病院が突然閉院した事件のときは、救急医療を残そうと市民の大きな動きがありました。今回は、じわじわ進んできた危機で、県の地域医療構想で何とかなると市民が思ってしまうのが私は心配です。今日は、そのことを訴えさせていただきます。この点、市長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

18年前の姫川病院についての問題、そして今、現在残っている糸魚川総合病院の問題、そして、吉田孝太郎先生がおつくりになっている、よしだ病院の問題、そして、開業医の問題、糸魚川には、いろんな部分で解決しなければならない、これから先、本当にどうなるか分からない問題について、たくさん出てきてると思います。現時点では、それが噴出してゐる状態。もうこの時点で後ろがない状態であるという部分の危機感を持っております。そのことをどういうふうにして、県の地域医療

構想があるから大丈夫なんだという部分に持っていけないで、やっぱり糸魚川市独自の医療体制は、こうしたいという部分をきちっと説明しなきゃいけない。それによって、また6市町村、新潟県内の病院の在り方、県立病院の在り方、厚生連の在り方も、2つのところに足場を作って、我々糸魚川市はしていかなきゃいけないって重たい課題はあると思いますけども、でもこれは避けて通れない。明日、もし万が一、糸魚川総合病院がなくなったらどうするかという部分の危機感を持ちながら、対応していくべきだと思っております。

私は、先ほど申しましたように、糸魚川を主語として、どういう形を取ればいいのか、それについてしっかりと考えていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

前回、私申し上げましたし、また、今回の一般質問の中でも、市長のほうからご説明をされておりましたが、繰り返し申し上げますと、糸魚川を上越と富山県に挟まれた医療過疎の谷間にするのではなくて、2つの医療圏域が重なるエリアの真ん中に置くために何をすべきかを考えて、働いてほしいということです。

あさひ総合病院への町からの支出は幾らで、財源はどうなっているか。

黒部市民病院には、高額の手術の機械はあるかご存じでしょうか。

糸魚川から黒部市民病院へ行って分娩された方は何名か、また、数年先はどうなっていくますか。

担当課は、そういうことを常に把握して、市民に分かるようにしていただきたい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、あさひ総合病院の件でございますが、町からの財政支出、単年度で5億円を超える繰入れをしているというふうに伺っております。それで赤字、単年度で3億円程度の赤字というふうにお聞きしております。

黒部市民病院の件でございますけれども、あの地域、新川地域というんですかね、あの地域での基幹病院になるわけです、黒部市民病院、中核病院になるわけですので、富山県の地域医療構想の中でもそのように位置づけられるというふうにお聞きしておりますし、かなり高度なロボット手術だとか、内視鏡系の手術だとか、あと、人工関節系の何か高度な医療機器も入っているというふうにお伺いしてるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

人口減少が著しい糸魚川市でこそ、地方病院存続のため、診療報酬制度改善を求める政治的な動き、看護職に寄り添った政治を求めるべきと考えます。市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

診療報酬については、この令和8年、改定に向けて国の動向を注視してまいりますし、これについての要望は、強く要望しておりますので、総務省、財務省関係の要望は、現時点で終わっておりますけれども、それに対してどういう回答がなされるかは、今後、推移されると思います。

また、今度は医療費の負担ということになりますけれども、これから社会保障費とか、そういうものに、逆に今度は、医療報酬が増えてくれば、そっちのほうに国民の皆さんの負担が増えてくるわけですので、そういうものについては、市民の理解、糸魚川市によって診療費が高くなったとしても、逆に、それが功を奏して皆さんの生命、または財産を守っていくもんだという部分に連動しながら説明をしていく必要があると思います。市民負担が増えるということについてのマイナス面は、市民は承知していただくように説明は続けていかなきゃいけないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、よろしくお願いいたします。

最後に提言をさせていただきます。

先ほども少しお話ありましたが、医療の情報を行政からも出してまいりましょう。

まず、先日の医療説明会の資料、説明、質疑を、誰でも見れる広報活動をお願いしたいと思えます。説明はテロップ付動画にして、編集して、質疑はAIを活用してアニメ化することも考えられます。そうすれば、子供たちも見てくれます。そういったことで、糸魚川の医療の状況をみんなで知り、みんなで守る取組としてまいりましょう。これは提言にとどめたいと思えます。

では、質問の3、まちの再生とにぎわいづくりの2回目の質問です。

（3）の新幹線開業がもたらしたものは何か。10年間の新幹線効果の検証と、市民、特に若者に期待されるこれからのまちづくりについて、担当課より具体的な事例等でご説明をいただければと存じます。

私の着目点は、日本海に一番近い新幹線駅ということで、駅から海までの駅前通りや商店街、市街地がにぎわい、活気づくと思っていましたが、現状そうなっていません。それはなぜですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

新幹線が開業して１０年たちましたけども、大きく影響があったのは、開業して間もなく駅北大火が起こったというのは、大きく影響したものというふうに考えております。大火からの復旧・復興を中心にまちづくりは進めてきたところではありますけども、ここへ来まして、DONUTSですとかそういったＩＴ関連企業の進出が見られましたり、キャッタービル、最近オープンしました空きビルを改装しての新たな事業の展開、それから、キターレのチャレンジキッチンから出た店舗なんかも街なかのほうに出てきております。こういった変化が徐々に見られてきておりますので、今後も、そういった変化が続いていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○１５番（田原 実君）

新幹線開業で、まちが発展してにぎわっていくことも考えられたけど、大火もあったし、なかなかうまくいかなかったんだと。そういった中で、新しい産業の素地もできてきたから、これから期待してくれと、こういうふうに理解でよろしいでしょうかね、はい。

では、（４）えちご押上ひすい海岸駅周辺整備における地元地区要望への対応について、私の着目点は、ヒスイ海岸に歩いていける。乗降客も多く、駅周辺の狭い道路や危険な用水路が改修されて、住民が喜び、観光客でにぎわい、活気づくと思っていましたが、現状そうなっていません。それはなぜですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

これまでも地元の皆様とは、定期的に対話をしてまいりました。今後も対話を続けながら、地域の皆様と一緒に駅周辺整備に取り組んでいきたいというふうに考えているところではありますけども、今現在は、地元の方から、北側の広場のほうに入る進入路が狭いので、そちらのほうの拡幅をお願いできないかということで要望をいただいております。現地を立ち会った上で、今現在、検討をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○１５番（田原 実君）

検討から、早期実行へとよろしく願いいたします。

石のまちやジオパークにおけるえちご押上ひすい海岸来訪者への対応について、海岸の環境のためにトイレは必要です。これは押上駅開業前から地元の要望でしたが、なぜ作らないのか伺います。

それと、通勤・通学への対応には駅の待合スペース、これが必要ということで、冬はホームで高校生が凍えている現状があります。また、バス交通との連携も考えて、地元、押上区では駅前に用地まで準備しましたが、なぜその思いに応えないのでしょうか。

役所は、駅ができるまでは期待させて、駅ができたら何もやらないという印象を私は持っています。高額な1,940万円のトイレを作るのなら、こちらをやってほしかったというのが、地元市議会議員、田原 実の思いであります。海岸には多くの人が来ますし、駅の利用者も増えています。市長、押上駅周辺は、未来を見据えて投資すべき場所だと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

投資をするということは、投資対効果という部分が付随してまいります。今、押上駅、押上のその駅の周辺について、やはり私は、主目的は何なのか、そこをきちっと選択をした上で、そこに何を集中させなきゃならんのかという部分を検討すべきだと思います。現実には、当初のえちご押上ひすい海岸駅、海水浴場が主目的だったのか、石拾いが主目的だったのか、それがあやふやな段階で、人が来るから海水浴場にも石拾いにもなっている。でも本当の主目的は何だったのかと、そこをきちっと私は整理すべきだと思います。それは押上に限らず、いろんな施設の主目的をきちっともう一度再検討して、それに合ったやり方、合った運営の仕方をしていくべきだと思っております。

そういう部分では、えちご押上ひすい海岸駅の主目的をもう一度洗い直して、それに付随した中身にしてまいりたい。高校生がぶるぶる震えてるという状況を私も見ました。そういう中においても、やはりそういう解消に向けては、何らかの対応をしなければ、これから若者が、やっぱり糸魚川に住みたいと思うような気持ちはならないな、残念な気持ちもあったというのは事実です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長、今の言葉は、私、押上へ行きますして、皆さんに伝えたいと思います。よろしくお願いします。

残り時間は、糸魚川市立地適正化計画を踏まえての、まちの再生とにぎわいづくりの議論ができればと存じます。

まず、エリアはどこか、市街地の都市機能誘導区域です。駅北子育て支援複合施設建設予定地が今、様々取り沙汰されていますが、あの場所は、こういった位置づけですか、担当課、ご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

都市機能誘導区域につきましては、立地適正化計画のまちづくりの方針が示す、若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくり、これを実現するための中心拠点として位置づけられているエリアだというふうに立地適正化計画では位置づけております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

まちの計画というものを少し振り返ってみたいと思います。

2015年、北陸新幹線糸魚川駅周辺整備計画によりアーケードが整備され、2016年、糸魚川駅北大火後の駅北復興まちづくり計画で、災害に強いまち、にぎわいのあるまち、住み続けられるまち、令和2年から令和6年の駅北まちづくり戦略で、まちなか大家族 つながり、育む、豊かな暮らし、にぎわいのあるまち、住み続けられるまち、まちの推進と実践活動の場所と位置づけられています。担当課、それでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

アーケードにつきましては、駅前銀座商店街様が整備されたものというふうに認識はしておりますけれども、そのほかの駅北復興まちづくり計画、それからまちづくり戦略につきましては、議員のおっしゃるとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

令和3年、旧東北電力ビルと旧宮田ビルを、市が取得した直後の3月議会で、田原 実是一般質問していますが、子育て支援の施設計画はまだ明確でなく、10月に駅北子育て基本計画を都市政策課が策定。令和4年1月、駅北子育て支援の検討状況の資料に、計画敷地の拡大と複合機能整備を検討と記載。旧東北電力ビル解体費を約5,520万円としました。そして、令和4年12月、駅北子育て支援施設基本計画素案をつくり、令和5年2月、駅北子育て支援施設基本計画案が議会で承認されないままパブリックコメント、設計費、土地代を含む整備費約14億8,000万、運営費年間約5,000万円、民間連携を理由にDBO方式を提案しています。このとき、議会一部から反発があったが、建設運営計画はそのまま進み、令和6年3月議会で、計画見直しが議論された後に採決され、計画は進んだが、解体工事が5回連続で不調となり、入札手を停止。つまり子育て施設の計画が明らかになってから、解体工事不調で頓挫するまでが3年間で、これは全て米田市長のときのことで、副市長、それで間違いないですね、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、田原議員おっしゃるとおり米田市長のときのことでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

その一方で、令和4年8月に大町観音堂で、大町区で取った住民アンケートを基に、近隣住民からの意見・要望を聞く会、同じくキターレで大町区、緑町区、新七区ほか、地元の団体の代表者に向けての説明会があり、市のこども課が前面に出て、参加者に説明をしております。

参加者からは、私たちの声がどこに反映されているのかと不満・意見が出されましたが、市はその後、具体的なことはしていないと私は感じています。副市長、それで間違いないでしょうか。もしこのときの住民意見の反映があったとするならば、それは何だったかということも確認をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

私の聞いている範囲でお答えさせていただきますが、買物の困難さがあった会合だったかな、そういうふうに私、お聞きしております。その後、今こども課っておっしゃったんですが、企画定住課の担当者が、たしか地元へ入って懇談をしたというふうに聞いていますが、結果として、それが地元の要望にかなっていないという現状があるというふうに認識しています。その買物の問題に関しましては、駅北地区だけでなく全市の課題でありますので、例えば交通手段も含めて、早急に解決をするように今、都市政策課のほうで地区懇談に回って、それを解決しようというふうに今動きをしておりますので、そういった動きで対応をさせてもらいたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

そういう動きはあるんですか。

令和6年までの駅北まちづくり戦略、まちなか大家族でも、子育て施設建設ありきとはなっていません。子育て支援以外の地産地消での買物が便利になることや、高齢者元気でまちづくりに参加できると思っていた被災者住民が、裏切られたとは言わないまでも、どうせ言っても駄目だからとの気持ちを持ってしまったことは、コミュニケーションを欠いた対応として、大きな過失とはい

ませんが、計画の進め方として、大変残念なことだったと思います。

副市長、そういうことだったんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

市の計画、いろんな事業をする際に、ご意見をお聞きすることになるんですけども、やはり子育て世代、若い世代の皆さんの人数といいますかね、数が少ないということで、声が上がってきにくいといったような状況があるかというふうに思っています。これまでやっぱり市の施策の中では、高齢者の方が多いわけですから、そういったことを充実して進めてきましたけれども、やはりこれからの糸魚川を担っていく若い世代の方の思いを大事に、そういったところをしっかりと整備していくんだという説明をしっかりとした上で、やっぱり理解をしていただいて整備を進めたかったというのが本音でございます。そのコミュニケーションの取り方が、今、田原議員も指摘されてるところなんだろうというふうに思っていますが、改めまして、いろんな事業をやるときには、しっかり市民説明をして取り組んでいきたい。それから、そういった説明を尽くしても、例えば反対が9割とかですね、そういった事業については、やはり実施が難しいのではないかということについて、市長としっかり相談をしながら、事業実施等については決めていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

若い方から賛同いただきたかったんだということだけでも、地域住民の皆さん、結構ご高齢でね、なかなかそこがうまくいかなかったという、その話も分かります。

しかしながら、やはり大火の被災者、近隣住民が望むまちなか再生とにぎわいづくりには、汎用的な土地活用を考え直そうという新しい市長の判断は正しいと私は思います。そして今、多くの方がそう考えていると私は思います。市長、今こそ市民の声で、まちづくりです。新しい糸魚川をつくっていきましょう。

子育て支援施設を予定した土地は、立地適正化計画の目標、にぎわいをつくるための利用を考えてまいりましょう。まちをつくりましょう。

海があって、駅があって、駅前通りがあるんですけども、このエリア、これを私はやっぱりまちだと思ってます。このにぎわいづくりをどうするかということだと思います。旧市役所跡地、海望公園、旧消防署跡地、駐車場を含む、一団の土地として活用して、まちの再生を進めてはいかがでしょうか。

近隣住民の要望のコンビニの誘致、遠方からの来訪者が期待される特徴ある図書館、資料館、温泉施設の設置を市民と考えてまいりましょう。これで、エリア全体を活性化する、まちを再生する、私はそういうことでこれから取り組んでいただきたいと思っているんですが、市長のお考えを伺い

ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、今日ご質問のあった阿部議員からのいろんなご提言も併せて、今回、田原議員の今回のご意見・ご提言については、いわゆる併せ持ったような形で進めていくということが必要なんじゃないかなと今は思っております。

そういう中において言えば、まずは駅北の施設の設置条件、今回の事業における設置条件にしっかりと合致させる必要がある。そこを今度起点として、まちづくりは商店街の皆さんとの協働作業になる。そのための協力が大前提、必要なものとなっておりますので、その協力が得れないようであれば、絵に描いた餅になりますので、そういう部分でいうと、阿部議員のときにもお答えしたように、やっぱり納得解の下で進めていく必要があるんじゃないかと思ってます。お二人のご意見は、非常に貴重な意見だと思って、私自身、受け止めたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

若者と高齢者の意見を一緒にして、まちがにぎわうように、よろしくお願ひしたいと思います。

この4月4日に街なかの区長の音頭取りで、本町通り商店街、近隣住民が集ってのまちづくり懇談会があり、ゲストパネラーの久保田郁夫氏からは、宿場町のDNAを生かすまちづくりのお話がありました。糸魚川の未来を照らすビジョンでした。参加した皆さんが気持ちを一つにしました。今度は市長として、そのお話をここで聞かせてください。皆さんも聞きたいでしょ。久保田市長、お願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えさせていただきます。

確かに私、糸魚川のまち、中心街については宿場町のDNAがあるということで、皆さんにお話を聞いていただきました。

まず、宿場町をつくるということの前提には、ラグビーじゃないですけどOne for All、All for Oneという精神が必要なんです。その精神があつてこそ、宿場町に必要なDNAを取りそろえられる。そこに食料品の売場がある、宿がある、酒蔵がある。そば屋がある。料理屋がある。また、浴場がある。町医者がそこにいる等々、やっぱり宿場町を形づくる上で、そこで働くとか、町民がそこに集うとか、そこに回遊するとかというものが出来上がると思っていま

す。そういうふうなDNAは糸魚川にある。受け継いだDNAを我々は、次の世代の若者たち、子供たちに残していくという責任もあるというふうに考えております。そういう中で、時間があれば宿場町たる部分のまちづくりについてのお話はさせていただきたいと思いますが、One for All、All for Oneという精神を持っていただく市民づくりに、まず、させていただいて、みんなで協働して、まちをつくっていききたいというふうなことでご提案を申し上げたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

高齢者と子供たちが共に学び、交流できる場所、言うなれば、サードプレイスとできるかどうか。高齢者が住みやすく、若者が定着できるような魅力的なまちづくりとできるかどうか。これを市長との対話を通じて、地域住民の意見を反映したまちづくり、宿場町のDNAを生かすまちづくりが進んでほしいと願っております。

市長は、そのような方向で進めていくということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

本日ご参加の議員の皆様の一々のご意見、それは市民を代表する声だと思って、真摯に受け止めて、また、それ以外のところで私が直接、市民の皆様との対話を通じて、よりよいまちづくりをしていきたいと思っております。ぜひ皆さんからもご協力をしていただいて、全庁一丸となって取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私からは、都市計画の視点から、駅から海へ向かう通りの活用、通りを使って都市の中に軸をつくることを提案いたします。なぜそうなのか、市長の知り合いに建築家や都市計画家がおられたら、ご意見を伺ってみてください。

時間が来ました。終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で田原 実議員の一般質問が終了いたしました。

以上で本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦勞さまでございました。

〈午後 3 時 4 3 分 散会〉

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員